

2010 年度

活動報告及び収支決算報告書



日本カトリック信徒宣教者会

2010年度 日本カトリック信徒宣教者会 活動報告

1. 2010年度の動きと成果（概要）

今年度もカンボジア、タイ、東ティモールの3カ国において、それぞれの活動を深め発展させることができた。

カンボジアでは1998年から実施しているプノンペン市郊外にあるステンミエンチャイ地区における活動を、住民参加型による初めての評価活動を行った。同地区における生活向上には女性の力が欠かせないことが再認識されると共に住民自身にも活動の必要性が浸透し、今後の活動展開に向け大きな布石となった。

シェムリアップでは、シェムリアップ教会の活動コーディネートや会計業務にも協力し、地域のカトリック共同体づくりに積極的に参与できた。礼拝会を母体とする NPO 法人レナセールがシェムリアップに設置した女性センターの運営に協力。DV(家庭内暴力)や人身売買などの危険から女性たちを保護し自立を支援する活動に取り組んだ。

コンポソルアン水上村では昨年度開始した無料診療所が順調に運営され、妊婦や乳幼児の健康チェックの他、一般の診療にも利用された。NPO 法人芝の会の支援により水上公園が設置され、日頃走り回ることのできない子ども達に運動場を提供できた他、陸上を使うことが出来ない住民が冠婚葬祭の場として利用できるようになった。

2010年度の研修を終えた4名の信徒宣教者が1月に派遣され、語学研修を開始した。これに合わせ、プノンペンの事務所兼住居を移転した。

東ティモールでは特定非営利活動法人東ティモール医療友の会 (AFMET) に派遣され、地域の保健プログラム活動を行った。政府保健プログラム SISCa の展開に協力した他、CLTS(コミュニティ主導の全村環境衛生活動)によるトイレ設置を行い、また在東ティモール日本大使館から依頼された蚊帳配布プログラムを実施した。あわせて学校保健プログラムの展開、政府結核プログラムへの参加など幅広い活動を実施することが出来た。1名が任期を終え、新たに2010年度の新派遣者が活動に就いた。

タイでは、昨年度新たに派遣契約を取り交わしたRTRC(後述)において、女性の自立支援を中心に活動を展開。伝統工芸の保存や活性化のために昨年度発足した女性グループ「パラン・チャイ・プーイン」で少数民族の女性たちを対象としたワークショップやセミナーを積極的に開催した。日本語教育、YPD(後述)とのカレン族のためのトレーニング、難民キャンプや避難民児童のための小学校支援など、幅広い活動を引き続き実施した。松本和歌子が任期を終了し、2001年度から派遣を行ってきたタイの活動は、一時的に派遣を休止した。

今年度新たな試みとしてフェローズ制度を立ち上げた。体験的に派遣を希望する方や信徒以外で派遣を希望するケースが近年増えてきていることから、こうした要望に柔軟に応えるためフェローズ委員会を立ち上げ、制度内容を検討。派遣期間を数週間とし、従来の派遣では必須条件であったキリスト教の受洗を問わない新たな派遣の形態としてスタートした。2011年2月に試行的に1名を、約2週間カンボジアへ派遣した。

日本国内での活動は、1年間休止した研修を再開した。5名の派遣候補者を迎え、研修を実施。夏に行う長期海外研修では、中国での研修を復活させ、他の研修もあわせ実りのあるものとなった。

また、昨年度に引き続き積極的に広報及び派遣候補者募集を行い、札幌、東京、名古屋、大阪、長崎で活動報告と派遣候補者募集説明会を実施した。平日企画として昨年度新規事業として行った「午後のバラエティータイム」を一部見直し、今年度は3回の開催とし、「夏休みボランティアデー」、カンボジア映画上映

では相当数の参加を得、好評を博した。ゴスペルクワイアも継続的に練習を行い、第2回目となるコンサートをカトリック築地教会にて開催した。

「2015年までに世界の貧困を半減すること」などを指す「ミレニアム開発目標:MDGs」キャンペーンに積極的に協力。ゴスペルコンサートやニュースレター「ミッション」で MDGs 達成に向けた活動紹介などを行った。

3月11日に発生した東日本大震災に際し、仙台教区サポートセンターの立ち上げに協力し、被災地ボランティア募集などを行った。被災地支援は、今後も継続実施していく。

各国派遣状況及び会員数は以下のとおりである。

2011年3月31日現在の派遣国と派遣者 カンボジア…8名、タイ…1名、東ティモール…3名 計 3ヶ国 12名
2011年3月31日現在の会員数 2,978(個人・団体) 内訳 個人… 1,581、教会… 326、修道会… 742、学校… 183、その他… 146

2. 各国活動

(1) カンボジア

1992年4月より内戦後の復興に取り組むカンボジア人、帰還難民者の支援をきっかけに信徒宣教者の派遣が開始された。バタンバン省にて児童養護施設におけるソーシャルワーク支援、洋裁技術支援・ハンディクラフト製作による女性の自立支援、スヴァイリエン省にて試験農場、コンボンスピー省では幼稚園支援など、カンボジア現地 NGO を通じてのコミュニティー開発支援を行ってきた。

1996年6月14日カンボジア政府に JLMM カンボジアとして国際 NGO 登録を行った。

1998年1月から、カリタス・カンボジアとの協働によりプノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区ごみ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援、2001年12月よりバタンバン知牧区内プルサート省コンボンルアンの水上市における住民との関わりを開始した。

また、2007年6月より、シェムリアップ省クナ・トゥメイにおいてカトリック教会が地域の子どもたちに向け行っている子どもセンターの識字教室などの活動支援を開始した。

さらに、2008年7月より、タオム村でカトリック教会が地域の子どもたちに向け行っている子どもセンターの識字教室などの活動支援を開始。2009年7月より、シェムリアップ省にあるレナセールが行う母子シェルター活動支援を開始した。

2002年度より浅野美幸(横浜教区)、2005年度より高橋真也(新潟教区)、2008年度より林愛子(京都教区)、濱田麻里(東京教区)、2010年度に相沢雅弘(東京教区)、石田咲子(東京教区)、小野武(仙台教区)、篠田正司(京都教区)を派遣した。

プノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区ごみ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援を浅野が担当し、トンレサップ湖上の村コンボンルアンの活動を高橋が担当、シェムリアップ省にあるクナ・トゥメイ・

センター、タオム・子どもセンターでの活動を林が担当、レナセールでの活動を濱田が担当した。2010年度派遣の相沢、石田、小野、篠田は2011年1月より7月まで語学研修。

I ステンミエンチャイ地区ゴミ捨て場周辺に暮らす家族のための生活向上支援

1. 対象地域と地域概要

プノンペン市ステンミエンチャイ地区ルッセイ村

2009年7月にステンミエンチャイのゴミ集積場は、ゴミの収容範囲を超えたため閉鎖され、プノンペン市の全てのゴミはダンコー地区にできた新ゴミ集積場に集め捨てられている。政府は住民たちが引き続きダンコー地区のゴミ集積場で有価物を拾うことを許可したが、近隣の村々に家建て移り住むことを禁止しているため、住民たちは以前から住んでいるルッセイ村にそのまま留まり、そこから毎日ルモー（乗合バイク）で通勤している。住民たちの移動がないため、JLMM ではステンミエンチャイのゴミ集積場が閉鎖されても、活動を継続。

ルッセイ村には、ゴミ集積場でゴミの中からリサイクルが可能な有価物を拾い集め、リサイクル業者に売り、生計を立てている家族が多く住んでいる。住民の多くは、以前地方で農業を営んでいた人たちで、灌漑用水の不足、農業技術の遅れなどにより、家族を養うための十分な食料や生活物資を購入するための現金を得ることが出来ずに都会に出てきた人たちである。

ルッセイ村では、生活環境不良のため栄養失調や皮膚疾患が多くみられる。また、高利貸しへの借金返済に苦しんでいる。子どもは家族を助ける労働力とみなされ、親は子どもの教育にあまり熱心ではない。子どもたちも家族を助きたい思いからゴミ集積場で働いている。また、小学校に入学できても、基礎的生活習慣や能力不足により落第や退学する子どもが多くいるのが現状である。

2010年度は、次のとおり事業を実施した。事業実施に関する活動資金の一部は、大阪大司教区「カンボジア教会の日」、ドイツ「Die Sternsinger」からの支援を受けた。

2. 活動

1) 子どもの家活動

貧困や家庭の事情で小学校に行っていない子ども、及び落第や退学が多い対象地域での就学前の子どもたちへの幼児教育、衛生教育、識字教育を実施した。基礎的社会能力や知的能力を学び取れる経験の場を提供。月曜日から金曜日の午前中、能力別に分かれた三クラスで、カンボジア人スタッフ1名の他に子どもの家の先生2名、アシスタント3名を雇用し活動を行った。生徒数は常時70～90名。

「子どもの家」が小学校への架け橋になるよう先生たちと定期的なミーティングを行いカリキュラムの充実を図った。また教育の大切さを保護者に理解してもらうために、母親ミーティングや家庭訪問を行い、教育の大切や、小学校への入学手続きの具体的な方法などを説明した。

特に経済的に問題のある家庭には他のNGOが行っている奨学金制度への申請方法を説明した。2010年度は33名の子どもたちが公立の小学校に入学した。

a) 大きな子どもの家

対象年齢:クメール語子音の読み書き、1から10の数字が分かる6歳から14歳の児童20名。

b) 小さな子どもの家

対象年齢:クメール語子音の読み書きがわからない4歳から8歳の児童50名。

c) 小さな小さな子どもの家

対象年齢:3歳から5歳の乳幼児20名(遊びやパズル中心)。

2) 栄養プログラム

2009年4月から始まった栄養プログラムを継続して行った。「子どもの家」での授業終了時に子どもたちに栄養価の高い食事を配給。スープとご飯、おかゆ、またはご飯と煮魚など、栄養バランスに配慮するとともに、子ども達が飽きないような献立とし、週に五日間、子どもたち全員(70人~90人/日)に食事を提供した。

3) 医療サービスと家庭訪問

2010年度は27件の緊急援助を行った。

親が病気や怪我で仕事に就けない家庭にお米や卵などの支給(11件)、その他病院までの交通費(12件)や治療費や薬代等(4件)を支援した。また、HIV 感染者には、講習や検査のためタケオまでの交通費や食糧援助を2ヶ月間行った。

家庭には医薬品が無いいため、怪我をした住民に対して、傷が悪化する前に簡単な傷の手当てと手当の方法を指導した。また、貧困家族80世帯を対象に月2回の石鹼、洗濯用洗剤、虱石鹼、皮膚疾患予防石鹼を低価格で販売した。

4) 移動図書館プログラム

カンボジアで活動する日本の NGO『SVA (社)シャンティ国際ボランティア会』に依頼し、移動図書館プログラムを子どもの家で月2回実施した。2008年1月より実施事業。

5) 屋台プロジェクト

ゴミ集積場で生計を立てている人たちに屋台の貸し出しを行う「屋台プロジェクト」を継続して実施した。研修を受けた販売員に屋台を貸し出し、クレープのようなお菓子「ロッチェ」の販売を行う。販売は、プノンペン市内や学校周辺などで行った。

販売員に屋台を貸し出すほか、材料を低価格で販売し、販売道具、自転車、屋台の修理等の支援も行った。2010年度は新たに女性2名が10日間の研修を受け販売員に加わり、成果をあげた。

販売員男性1名は学校が長期休暇の時期に、「ロッチェ」が売れなくなりゴミ集積場に戻った。2010年3月末現在4名が屋台で生計を立てている。また、1名が2月から出産休暇に入り、2010年5月に復帰する予定である。

6) 参加型評価

2010年7月16日から8月18日の間、独立行政法人国際協力機構(JICA)の「NGO 組織強化のためのアドバイザー派遣制度」を利用し、評価専門家である田中博(たなかひろし)氏の派遣を受け、約1ヶ月間に亘り1998年より継続実施しているステンミエンチャイのプロジェクトを参加型手法により、評価を行った。

「子どもの家」のスタッフ、屋台メンバーとの共同作業により、関係者分析、評価目的の設定、事業の内容確認、評価設問の設定等を行った。現地スタッフによる収集データの分析や判断、および評価で得られた学びや教訓が今後の活動や将来計画の策定に生かせるものとなった。

特に健康・収入創出・教育が生活向上のために深く関連していること、そのために女性の役割がとても重要であることが、スタッフたちの間で確認され意識を共有することができた。

7) ステンミエンチャイベースライン調査

ルッセイ村で関わっている家族104世帯のアンケート調査を実施。調査の結果を基に「子どもの家」のスタッフとの共同作業により、問題分析を行った。この結果をもとに、2011年8月に参加型評価で出た大まかなプランを具体的に作成する予定である。

8) JICA 草の根技術協力事業(パートナー型)申請

独立行政法人国際協力機構(JICA)が行う「草の根技術協力事業(パートナー型)」平成22年度第2期募集にプロポーザル提出を行った。ステンミエンチャイ地区における女性(お母さん)が主体的に動き、地域全体の生活向上を計画した。落選。

9) 現金創出プロジェクト調査

屋台貸出プロジェクトをさらに充実したものとするため、「ロツティ」に加え販売品目の調査を行った。進藤冷菓(秋田県)を訪問し、秋田名物「ババヘラ」アイスについて調査し、カンボジアでの展開の可能性を探った。

10) その他

- a) 月一回開催される「レイミッシュナリーの集い」に出席
- b) カトリック NGO 会議に出席
- c) タオム130周年式典参列(4/7)
- d) ショファイユの幼きイエズス会の幼稚園落成式典参加(5/17)
- e) 評価専門家を招き参加型評価実施(7/16-8/18)
- f) ステンミエンチャイにおいて104世帯のベースライン調査実施(11月)
- g) ベースライン調査の結果を基に JLMM 参加型問題分析実施(11/15-20)
- h) 独立行政法人国際協力機構草の根技術協力事業提案書作成(11月)
- i) カンボジアで活動する修道会、カトリック NGO との連携
- j) 公立小学校、教育省、NGO など地域機関との連携
- k) 子どもの家クメール正月ゲーム大会(4/9)、子どもの家卒業式(10/1)実施。
- l) カトリック学生寮の男子大学生たちが子どもの家においてボランティアでクリスマス会を開催(12/21)
- m) 外務省からのアグリーメント取得のための書類作成、教育省訪問等(11月)
- n) ドイツ「Die Sternsinger」助成金申請、及び子どもの家における運用と決算報告(5月)
- o) 外務省、教育省への月間活動報告、決算報告
- p) ENJJ(大使館、NGO、JICA、商工会議所の連絡会)全体会議に出席
- q) 26組のべ247名のステンミエンチャイ訪問・見学の受け入れ

II プルサート州水上村コンボンルアン 生活向上支援

1. 対象地域と地域概要

プルサート州水上村コンボンルアン

水上村コンボンルアンは、カンボジアのほぼ中央にあるトンレサップ湖の上に位置している。この村では1,600世帯、6,000人の人々が船の家で生活しており、約70%がベトナム人である。住民は主に漁業で生計を立てているが、貧困世帯が多く生活全般に様々な問題を抱えている。住民は生活用水として湖の水を

そのまま利用しているが、生活廃水や家畜の排泄物、ゴミなども全て垂れ流しにしているため、水質汚染は著しく健康に及ぼす影響も大きい。また、多くのベトナム人はカンボジア語が話せない、国籍を持たないといった理由で公共機関へアクセスすることができず、カンボジア社会から孤立した状態になっている。医療機関へかかることができないために簡単な病気でも死に至るケースが多い。子どもは言葉の問題から公立の学校へ通えないなどの問題がある。

2001年からJLMMカンボジアと住民の協力の元、水上教室を設置し、識字教育、住民によって組織された基本的な保健サービスの管理、運営を行ってきた。2006年6月より高橋が活動している。

2. 活動

1) 保健衛生プログラム

① 水浴びプログラム

週1回の水浴びプログラムを継続実施した。衛生指導や栄養指導も合わせて行い、健康状態の把握、爪切り、耳掃除、薬の塗布などのケアも継続的に行った。水浴びプログラムに通ってくる子どもたちの湿疹や虱などの症状は、年々少なくなっている。また、JLMMカンボジアで準備している湿疹用石鹸、虱用石鹸を自ら買い求め日常的に使用するようになってきている。水浴びプログラムに参加する子ども達は平均して1回に50人程度。識字教室の先生他、教会の青年グループもこの活動を手伝ってくれるようになっており、協力の輪が広がっている。

② 病人支援プログラム

病院受診のための交通費支援、病院や病人受け入れ施設までの付き添い、軽症のケースに対しての健康相談や、健康管理などの教育・指導、食費の支援などを行った。交通費支援、病人訪問などに関しては、水上村教会の病人支援グループと共に協力している。

関わった病人は、栄養失調の幼児、子宮筋腫、腎炎、腰痛、HIV、目の病気、腸炎、結核、肝炎、足の腫瘍、難産、手足の麻痺、心臓病など様々であった。病人支援数54名、57件のケース。

③ ホームケアプログラム

主に病人支援で関わった病人(病院から帰って来た病人など)の家庭を訪問し、在宅での簡単なケアや処置、栄養剤の支援を実施。また本人や家族、家族に対し健康指導や栄養指導、相談活動なども合わせて行った。

2) 母子保健に関する活動

妊婦や乳幼児の健康チェックを主とした無料診断クリニックを開いた。毎週土日の午前9時から11時までの2時間、妊婦や乳幼児へのケア(村の健康センターで受けられるサービスと同様のもの)を、雇っている産婦人科の医師が行った。また一般の病人の診療もあわせて実施した。母乳不足の場合は粉ミルクを支援。

場所は識字教室の図書室。今年度(97日間)クリニックを訪れた妊婦は134名、乳幼児(5歳以下)は241名、一般の病人は850名。粉ミルクは計18回支援した。

2010年度からは従来までの訪問活動を発展させ、月1回の予防接種及び妊婦への教育ワークショップを実施(2010年9月から実施)。また、患者がクリニックを訪れやすくするために、カンボジア語からベトナム語への通訳を雇用した。より多くの人々に利用してもらうため、クリニック開始時間前に村中で告知も行った。

3) 識字教育プログラム

教会が運営する識字教室「マリアーノ学校」では、ベトナム人の子どもにカンボジア語とベトナム語の勉強を無料で教えている。JLMM カンボジアは、その学校のカリキュラム準備、教材の支援などを行った。

2011年3月末日現在、カンボジア人先生2名(1名はアシスタント)、ベトナム人先生1名の計3名がカンボジア語の授業を行っている。授業は午前4クラス。また午後ベトナム人の先生2名がベトナム語の授業を行った。通学する生徒数は1年平均して40名程度である。

2005年から継続して実施する識字教室の生徒及び卒業生に向けた、2艘の通学船での子どもの送迎も実施した。

週に一度、授業後に先生とスタッフを含めたミーティングを行い、カリキュラムの準備や指導力の向上に努めた。また研修会などにも先生が積極的に参加した。

今年度も年中行事(クリスマス会、卒業式、大掃除等)を先生、生徒と共に準備し、行うことが出来た。また、卒業生を連れてバスでシェムリアップへ1泊2日の遠足にも出かけた。

学校の先生の給与など、マリアーノ学校にかかる経費の一部を、今年度はバタンバン教区を通じてスペインの助成金団体が支援を行った。

4) 栄養改善プログラム

2005年2月より始まった栄養改善プログラムを現在も継続して実施。週一回の水浴びプログラムの後、栄養価の高い食事を提供し合わせて栄養指導を行った。

2010年度より提供する食事に新メニューを追加し、2種類のお粥、豆乳、バナナの甘味を週替わりで村の子どもたちへ提供した。参加人数は1回平均50名であった。

5) 奨学金支援(里親制度)

2010年度は日本の里親の方からの支援により5名の里子が奨学金を受けた。5名共にバタンバン市にあるカトリック司祭が運営する寮で生活しながら学校へ通っている。うち2名が高校生、1名が中学生、2名が小学生。

6) 公立小学校との連携

マリアーノ学校の卒業生が小学校に入学した後も、勉学を順調に続けることが出来るように、公立小学校との連携を密に行った。

今年度は公立小学校の卒業式にあわせ、先生方にワイシャツを贈った。

7) 浄水プロジェクト

2007年4月より湖の水を浄化して住民に安価で販売するプロジェクトを実施。年々村人からの需要が増え、乾季の時期には生産(供給)が追いつかないほどになっている。今年度から運営管理を現地教会に委託した。JLMM カンボジアは、その運営に協力している。

2011年に入り、ストック出来る水の量を増やすために新たにタンクを増やし、また浄化フィルターも新しいものを増設した。

8) 水上公園

2010年7月、NPO 法人「芝の会」からの支援により、水上に公園を設置した。体育館のようなこの公園は、子どもたちが自由に走り回れる場所として利用出来る他、村やお寺の行事などにも貸し出しを行い、公民館としての役割も果たしている。

9) 青年活動

今年度から、教会の青年たちが組織する青年会の活動協力を始める。具体的な活動は、貧困家庭支援（家の修理など）、病人訪問、お葬式への参加など。その活動にかかる費用の一部を支援した。

10) その他

- a) 「海外宣教者を支援する会」への助成金申請(1月)
- b) 教区のマリアーノ学校活動資金のために、イタリアの団体への助成金申請(3月)
- c) 水上公園祝別式(8月)
- d) コンポルアン教会担当司祭及び教会リーダーグループとの定期ミーティング
- e) 公立小学校、教育省、警察、漁業局などをはじめとする地域機関との連携
- f) カンボジアで活動する修道会、カトリック NGO との連携
- g) 「カンボジア福祉基金藤沢」の運用
- h) 各教会・個人へ向けた毎月の活動・会計報告
- i) 日本からの支援物資の配給(糸井重里事務所の T シャツなど)
- j) ショファイユの幼きイエズス会の新しい子どもセンター開所式準備と参加(5月)
- k) 今井海外協力基金の諮問委員会における事業報告(7月)
- l) 人事 なし

Ⅲ シェムリアップ教会支援

シェムリアップ教会で10年間主任司祭をしていたヘリ神父が休暇で2010年8月に帰国。新しく、ヘリ師と同じくインドネシア人のステパヌス神父が主任司祭として着任した。JLMM カンボジアは、2010年9月から再び会計を任せられた。タオムとクナ・トゥメイで幼稚園が始まったことから、従前より実施してきたコーナー遊びを終了した。

シェムリアップ教会はタオム、クナ・トゥメイ以外にも3つの水上村とピアス・ネン・農場に教会あるいはセンターを持っている。各センターでのおかゆプログラムや病院・刑務所訪問などの活動は多岐にわたり、海外からの見学やボランティアも多数受け入れている。2011年3月現在、林愛子はシェムリアップ教会の活動コーディネーター・会計業務などを中心に活動を行っている。

バンテイミエンチャイ省・タオム村

1. 対象地域と地域概要

タオム村はシェムリアップから車で2時間ほどの所に位置する村で、100年以上前に宣教師が建てた立派な教会がある。しかし戦争、内戦のため、教会は廃墟と化し、砲弾の痕や虐殺された人たちの血のあとなどがあり、多くのカトリック信者たちもこの時に殺されたり、村から逃げたりしたと言われ、長く関わりが途絶えていた。2002年にカトリック司祭が村人からタオム村に廃墟と化した教会があることを聞き、神父、シスター方、シェムリアップ教会の信徒達で教会の周辺を整地し、2004年にヘリ神父が子どもセンターを設立した。

村には電気がなく、安全な水の確保も困難である。生活用水は村を流れる褐色の川の水で、水場は牛

や豚の水浴びや、動物の屠殺場でもある。また、近隣住民は水浴びや洗濯場としても利用している。こうした衛生状態の中、子どもも大人も胃腸病を患うことが多い。仕事も農業以外はほとんどなく、村人の生活は過酷な状態にある。市場も近隣にはなく、小さな商店で食料などを購入するが、季節によっては生鮮野菜が入手できず、食糧入手にも困窮する。

2003年に、バタンバン知牧区キケ司教が教会をカトリック教会の所有とする代わりに小学校を村の中に建設。現在、ほとんどの児童がこの学校に通う。しかし教師達は休むことが多く、十分な授業が行えておらず、生徒の中には自分の名前が書けない子どもがたくさんいるのが現状である。子ども達の多くは家庭の仕事を手伝い、一日に何往復もする水汲み、豚の飼料づくり、餌やり、牛飼い、掃除、洗濯、炊飯、薪割り、皿洗い、兄弟姉妹の世話などの家事をこなす。

2004年11月こうした児童を対象に、「子ども達に楽しい時間を提供したい」という神父の意向により、子どもセンターが設置された。

現在、タオム村では162家族。785名が生活している。

2011年3月末現在、林が2010年1月から8月まで前任者が行っていたコーナー遊びを引継いで、毎週月曜にタオム村に行き、3日から4日間村に滞在していた。しかし、幼稚園が始まり、会計の仕事を任され、2010年9月より月に1～2度、奨学金支援している学生との面談に行っている。

2. 活動

タオム・子どもセンター

①幼稚園の運営

タオムには幼稚園がなく、ほとんどの村人が農業に従事しており、農作業に忙しく、子どもの教育に熱心でない親も多い。また、小さい幼児も家庭でほおっておかれるケースも多くみられる。そこで、2010年3月より幼稚園活動を開始した。子どもセンターで幼児教育の教員養成コースを受けたタオムのスタッフ2名、アシスタント2名が指導にあっている。

○対象： 3～5歳の子ども、42名

○曜日・時間： 月曜～金曜 午前8:00～10:00 午後2:00～4:00

②図書館の運営

2009年12月にシンガポールの支援で図書館を設置。クメール語の本以外に英語の本もあり、タオムのスタッフ3名が司書として勤務、貸し出しを行っている。本の取り扱いや、3年生以上を対象にして、物語を読んでその内容を答える試験にも活用した。

○曜日・時間： 月曜・水～土曜 午後1:00～4:00

③ユース(13歳～19歳)セント・ビンセンシオ・ポールのグループ活動

13歳から19歳くらいの青年層を対象としたグループを設置し、38名のメンバーが参加した。

毎週月曜午後5時から6時にミーティングと活動、火曜午後5時から6時に要理を学習。カンボジア人スタッフ(カテキスタ)が中心となり、タオム・子どもセンター活動の補助として加わっている。祈りから始まり、活動報告、キリスト教の勉強などを行い、祈りで終わる。

毎週日曜日、ミーティングや家庭訪問、教会の掃除などの活動も実施した。

④奨学金制度の実施

タオムの中高生(Sway 学生寮の6名、Don Bosco 職業訓練校9名、Tak chou 高校5名、村の中学生約20名)を支援。

⑤おかゆプログラム

毎週月曜日、教会に子ども達を集め、歌唱指導、ゲームなどをし、その後おかゆを配布。子ども達は150～200名ほど集まり、おかゆ作りは地元の中高生やタオムの信徒が作り、センターは青少年育成にも役立っている。

シエムリアップ省クナ・トゥメイ村

1. 対象地域と地域概要

クナ・トゥメイ村は、ポルポト時代にタイの難民キャンプに避難していた帰還難民により作られた村と言われている。現在、村には約760世帯、3,500名以上の人が住んでいる。貧富の差が激しく、高価な自転車に乗って学校に通う子どももいれば、学校に通えない子どももいる。また村内では賭博が公然と行われ、賭博のために家庭崩壊している家族も少なくない。2002年、村内には教会によって「子どもセンター」が設置された。2010年1月より前任者が行っていたコーナー遊びを引継ぎ、活動を展開した。2010年9月コーナー遊び終了。

2. 活動

クナ・トゥメイ・センター

①プレ・スクールの運営

2010年4月よりプレ・スクール活動を開始した。子どもセンターで幼児教育の教員養成コースを受けたクナ・トゥメイのスタッフ1名が指導にあっている。

○対象：3～5歳の子ども、20名

○曜日・時間：月曜～金曜 午前8:00～10:00 午後2:00～4:00

②おかゆプログラム

毎週日曜日午後2時から子ども達をセンターに集め、宗教の話や色塗り、歌唱指導、ゲームなどをし、その後おかゆを配布。子ども達は100名ほど集まり、おかゆ作りは地元の中高生やシエムリアップ教会の中高生が作り、センターは青少年育成にも役立っている。

その他地域

1. 対象地域と地域概要

1)シエムリアップ州チョン・クニア村

チョン・クニア村はカンボジアのほぼ中央にあるトンレサップ湖の上に位置し、7つの村で構成されている。トンレサップ湖は雨季には乾季の3倍もの大きさになる。チョン・クニア村はシエムリアップから雨季で17km、乾季で20km離れた場所に位置する。プノンペンまでだと船で雨季は5時間、乾季は7時間、雨季直前の5月頃には10時間かかる。この村では約1,050世帯、6,000名以上の人が水上で生活しており、ベトナム人、その他クメール人とチャム族の人々がいる。

彼らは主に漁業、他には運搬労働、船での小売業、観光客相手の商売などで生計を立てているが、貧困世帯が多く、生活全般に様々な問題を抱えている。人々は生活用水として湖の水をそのまま使用しているが、生活排水や家畜の排泄物、ごみなども全て垂れ流しにしているため、水質汚染は著しく健康に及ぼ

す影響も大きい。また、デング熱、マラリア、下痢、肺炎、腸チフスなどの病気が多く見られる。

チョン・クニア教会の横にはプレ・スクールがあり、クメール語のクラスは6～16歳の1・2年生32名、14～17歳の3・4年生14名、英語のクラス10名が通っている。ベトナム語のクラス17名ベトナム人とクメール人2名の教師3名が指導にあたった。

村内には公立小学校が5校、公立中学校が1校、ベトナム人のための学校、チャム人のための学校、カタスが運営しているクリニックがある。2005年、村内には教会によって「子どもセンター」が設置された。

2) バットンバン州アイ・プノン郡 Kohchiveang コミューン、プレクトアール村

プレクトアール村はトンレサップ湖の上にあり、シェムリアップから55kmの所に位置する。ここには鳥獣保護区があり、無数の野鳥(ペリカン、サギなど)を雨期明けの11月～1月末までの3ヵ月に見学することができる。

雨季は1時間半、乾季は2時間半～3時間かかり、バットンバンまでだと雨季3時間、乾季6～7時間かかる。この村では979世帯、約4,200名が水上で生活しており、ベトナム人、クメール人、チャム族の人々がいる。湖上で暮らす彼らは季節の変わり目の水位の増減にあわせ、コンボンルアンの人々と同様に、家を移動させ生活している。

住民は主に漁により生計をたてている。他に魚の加工業、船での小売業、観光客に向けた商売をしている。また、違法だが鳥・亀・蛇・猿などを捕まえて収入を得ているケースもある。

村内にはお寺があり、またユニセフ援助による公立小学校2校、10km離れた所に中学校があり、高校は遠くて通学できない。

3) シェムリアップ州アンコールトム郡ピアス・ネン村

シェムリアップから27km、アンコールトムの北を通って行った所に6つの村から構成されたピアス・ネン村がある。ピアス・ネン村にはコミュニティと旧ピアス・ネンと新ピアス・ネンの3つがあり、新ピアス・ネンには教会の農場がある。住民は野菜栽培、薪集め、わら屋根作り、シェムリアップまで出稼ぎ、小売業などの仕事をしている。

ピアス・ネンコミュニティには約7,000名、1,150世帯、旧ピアス・ネンには967名162世帯、新ピアス・ネンには1,250名321世帯が生活している。

旧ピアス・ネンの村人80%、新ピアス・ネンの村人50%が土地・仕事がない貧困家庭。彼らは米がなく森から採ってきた芋を食べたり売ったりしている。住民は衛生に対する関心が薄く、下痢の症状が多く見られ、他にデング熱などの病気も見られる。

村内には小学校1校、中学校1校、ヘルスセンター1施設ある。

4) シェムリアップ州ソニコム郡コンボンクレアンコミュニティ

コンボンクレアン村はシェムリアップから東に50km、プノンペン方向に行く道の途中にあり、高床式住居群が見られる村。人口1,675名、775世帯が生活していて、8つの村からなっている。漁業、小売、運搬労働などで生計を立てている。

2010年2月から子どもセンターがあるターチュロニアン村には3つのクラスがあり、5～8歳対象の1年生62人、9～14歳対象の2年32名、15～18歳対象の3年8名が通っている。

村内には小学校2校、中学校1校、お寺がある。

2. 活動

1) おかゆプログラム

2010年度は、シムリアップ教会と7つの教会やセンターにて、週に1度、台湾などの支援によりおかゆプログラムを実施した。栄養価の高い食品を継続して摂取するのが困難な地域にあり、健康を持続するためにも栄養のある食品を摂取することは重要である。衛生指導、栄養指導、歌唱指導、ゲームなどをし、その後おかゆを配布。おかゆ作りは村人や中高生が手伝い、センターは青少年育成にも役立っている。

シムリアップ教会では毎週日曜約100名、タオムでは毎週月曜日約200名、クナ・トゥメイでは毎週日曜日150人、ピアス・ネンでは毎週木曜日約300名、農場では毎週日曜日約200名、プレクトアールでは毎週日曜日約150名、コンポンクレアンでは毎週日曜約200名、チョン・クニアでは毎週日曜日約100名の子どもが集まり、こうした子ども達を対象とした。

2) 病院・刑務所訪問

シムリアップ市内にあるシムリアップ州立病院あるいは軍病院、刑務所を果物などの差し入れを持って毎週土曜日に訪問している。

州立病院内は患者で溢れ、ベッドのない患者もおり、環境も決して衛生的とは言えない。食事も自炊のため、貧しい患者は十分な食事できないのが現状である。軍病院も貧しい兵士が多く、国境から送られてくる兵士もいる。付き添いの家族が患者の看病をしなければならず、家族のいない者や遠くから来ている患者は付き添いがいないケースもある。

州立刑務所にはカンボジア人以外にもベトナム人・タイ人・インドネシア人も収容されている。貧しさから盗難などの犯罪や、家族の訪問がなく何年も家族と会っていないなど様々な背景を持った約1,000名が収容されている。

3) その他

- a) シムリアップ教会の会計手伝い(2010年1月～8月)、会計(2010年9月～)。ミサ献金の計算
- b) シムリアップ教会、ゲスト受け入れ手伝い。ギフトショップやミサの準備など
- c) 教会の活動地の見学・宿泊受け入れ
- d) 教皇使節を迎えタオムでの洗礼式(4/7)
- e) おかゆプログラム助成金申請(4月)
- f) タオムでの韓国の医師団のメディカルミッション受け入れ(8/12)
- g) バットンバン教区パストラルミーティングに参加(11/3～5)
- h) バットンバン教区アカウンティングの研修(12/7)

IV. NPO 法人レナセール「カンボジア女性シェルター事業」

1. 対象地域と地域概要

RWW 自立支援センター(シムリアップ市内)

「RENACER, Walk with Woman」(日本法人はNPO 法人「レナセール・女性とともに歩む会」)(RENACERはスペイン語で『新しく生まれる』の意味)はカンボジア社会の中で脆弱な立場に置かれ、その人格の尊厳が危うくされている女性(その同伴児を含む)、また様々な理由から自立が困難、行き場が無い女性を保護し彼女たちの自立を支援することを目的に設立された。特に暴力、性的売買、性的虐待、産前産後、レイプ、ホームレスの女性などの女性被害者を保護している。また同伴児への就学の提供を実施している。

2009年7月よりシェムリアップ市内で女性自立支援センターが設置され、活動が展開した。シェムリアップ女性センターでは一時保護の他に、レナセールでの職業訓練や社会復帰支援を目指し、裁縫訓練を行っている。

このような女性たちは自分に起こった被害を自分への非、恥ずかしい過去・傷として受け止め、公にすることや詳細・過去を話したがる。シェルターでは女性一人一人の人格を尊重しながら女性たちを一時的に保護し心や体のケアを含めてスタッフと共に一緒に歩み、再出発していくことを目指している。

2011年3月31日現在、内外含め5ケースの女性を支援している(同伴児4名、自立支援コース8名含め、合計17名)。支援延べ人数は同伴児含め3,529名(2010年4月～2011年3月)。

濱田麻里が派遣され、シェムリアップでの活動を中心に、活動を行っている。

2007年8月よりプノンペン市内でもシェルター(一時保護)活動が展開されている。当シェルターも入居期間6ヶ月という期限の中で、シェルターを提供しながら他団体との連携がある職業訓練コースに通うことができる。また同伴児への就学の提供も実施している。

2. 活動

RWW 自立支援センタースタッフは日勤/夜勤2体制交代で運営されている。2011年3月31日現在、スタッフ6名(うち日本人2名)で構成されている。

1) クライアント(利用者)のケア

① 面接・インタビュー(不定期)

クライアントとの時間をもち健康状態、不安や悩み、今後の希望などを聴きとりし、関係構築、また将来に活かせるように努める。

② 同伴児に対する保健指導

クライアントの多くは衛生に対する確かな知識が不足しているため、不衛生な生活をしていることが多い。そのため保健授業として基本的な指導を定期的に行った。また定期的に散髪や爪切りを行い、衛生に関して意識向上を図った。

③ 病人の世話

クライアントや同伴児が病気の場合に病院への付き添い、また病室へ食料や飲料水の提供を行った。

④ 子どもの世話

クライアントが裁縫訓練、仕事中(料理人)の場合はスタッフが子どもを預かるなど、ケアを行った。

⑤ 食事作り

センターでは料理人を雇用しているが、週1日休みのため日勤のスタッフが市場へ買い物に行き、昼食(夕食分を含む)を作り提供した。

2) 事務作業/施設の管理

① 施設等の管理

施設内外の清掃、洗濯をスタッフとともにいった。また、クライアントが利用する物品の管理や無料貸出し業務を行った。

② ソーラーシステムの導入と管理

2009年9月に日本のNGO団体からソーラー発電システムが寄贈され導入した。発電量が充分ではないため、1日4時間だけの使用ではあるが、利用および管理を行った。また7月27日にはサンタマリアスクール

6年生より、卒業記念寄付でソーラーパネル3枚が追加、導入した。

③書類作成業務

7月より、県庁、社会福祉省に毎月のレポート(英語/クメール語)作成、提出した。

3) 自立支援

①ロザリオ製作と販売(5月5日～)

2010年5月5日より、クライアントの自立支援として、クライアントの空き時間を利用してロザリオを製作した。シェムリアップ教会などで販売を行った。クライアントは1つ100リエル(0.025ドル)を収入として得た。

②識字教室(5月6日～から開始。不定期)

2010年5月6日より、読み書きの出来ないクライアント女性に対し、クメール人スタッフによる識字教室を開始し、退所後の自立支援につなげた。不定期実施。

③ミサンガの製作と販売(10月)

2010年10月より、クライアントの自立支援として、クライアントの空き時間を利用してミサンガの製作を行った。シェムリアップ教会にて販売し、クライアントは1つ100リエル(0.025ドル)を収入として得た。

④裁縫訓練コース(12月～)

2010年12月より、外部から裁縫の講師を招き平日8時30分～11時まで裁縫訓練を開始した。クライアントだけではなく、村内で裁縫を習得したい女性も対象とし実施した。

4) 他団体との連携

a) INTERNATIONAL JUSTICE MISSION(IJM)とミーティングでお互いの団体紹介(8月)

b) クライアント同伴児の託児先を見つけるため、シェムリアップ市内の NGO 団体と連携し、児童養護施設の開拓を行った。(8月～10月)

5) スタッフのための研修実施

① プノンペンにて明治学院大学社会福祉士とミーティング(9月13日)

② スキルアップ向上

シェルタースタッフの能力向上に向けた事業を実施した。

a) プノンペンシェルターに講師を招き、プノンペンにて研修を実施した(12月終了)

b) プノンペンシェルターにてシェムリアップセンタースタッフが他のシェルター等に向け、実地研修を行った。(2010年4月より不定期実施)

c) シェムリアップセンターにてプノンペンスタッフを受け入れ実地研修を行った。(2010年4月より不定期実施)

③ 礼拝会 Sr.Celine による週3回の英語授業を開始した。(7月より再開)

④ アンコール小児病院にて結核についての講義を受講した。(3月7日)

6) その他

a) タオム130周年式典参列(4月7日)

b) ショファイユの幼きイエズス会幼稚園落成式参加と前日準備(5月17日)

c) クライアント支援のため日本人経営の店舗視察(8月13日)

d) シェムリアップ教会によるフルーツ配り病院支援に参加

- e) バッタバン教区パストラルミーティングに参加(10月20日～22日)
- f) シェムリアップセンターにてクリスマス会(12月24日)
- g) センターへのゲスト案内(10組)
- h) 日本所属教会、個人に活動報告(毎月)

V. その他、事務活動

1) スタディーツアー・ボランティア・活動地見学

次の日程で JLMM 関連カンボジアスタディーツアーの受け入れを行った。

2010年7月29日～8月8日	JLMM 夏のスタディーツアーAコース
2010年9月3日～9月9日	JLMM 夏のスタディーツアーBコース
2011年2月6日～21日	専修大学 SIA サークルカンボジアツアー
2011年2月23日～3月2日	NPO「芝の会」カンボジアスタディーツアー

ステンミエンチャイ: 上記以外に22組のべ196名の見学・取材を受け入れた。

コンポンルアン: 上記以外に15組のべ30名の見学・取材・宿泊を受け入れた。

2) 日本の修道会との連帯

「ショファイユの幼きイエズス修道会カンボジア共同体」と活動や事務的内容等のミーティングを開催。査証申請の代行等を行った。

3) ラチャナ・ハンディクラフト・バッタンバンの支援

女性自立に向けた活動を行う現地 NGO「ラチャナ・ハンディクラフト・バッタンバン」の商品を JLMM オフィスにて販売。バザー用、オーダー受注、東京事務局への発送作業等を行った。

4) 東京事務局との連絡調整

2010年8月8日～18日	プノンペンにおいて参加型評価
2010年11月15日～20日	プノンペンにおいてベースライン調査を基に参加型問題分析
2010年11月29日～12月2日	オリビエ司教訪問、JICAコンサルテーション

5) 黙想会・祈りの集い

2010年5月29日～6月2日 Metta Karuna Centre シェムリアップにおいて千原道明神父(イエズス、マリアの聖心会)指導による黙想会を実施した。

また、月に一度、祈りの集い及び活動報告を行った。

6) 一時帰国

一年間の活動を終え、次のとおり一時帰国した。

高橋真也	2010年7月5日～14日、10月10日～11月24日
浅野美幸	2010年9月16日～11月1日
濱田麻里	2010年11月6日～12月4日
林愛子	2010年11月6日～12月6日

7) 一時帰国報告会

一時帰国の時期に合わせ、次のとおり各地で報告会を実施した。

①高橋真也

2010年 7月 6日	JLMM 研修生への講義(調布)
7月 8日	今井海外協力基金の諮問委員会における事業報告会(アジア文化会館)
7月 9日	NPO 法人「芝の会」において、水上公園に関する活動報告(旗の台)
7月11日	横浜教区カトリック由比ガ浜教会(鎌倉)
7月12日	ベタニア修道院のシスターへ報告会(清瀬) コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院のシスターへ報告会(調布)
10月13日	白百合女子大学講義(仙川)
10月16日	カンボジア DAY において最新活動報告(四谷)
10月17日	横浜教区カトリック藤沢教会(藤沢)
10月18日	暁の星小学校5、6年生に向けてお話 暁の星中学校3年生に向けてお話 援助マリア修道院のシスターへ活動報告(福山)
10月20日	広島教区カトリック宇部教会(下関)
10月21日	援助マリア修道会第3会員に向けてお話(長府)
10月22日	広島教区カトリック山口教会(山口)
10月23日	広島教区カトリック長府教会(長府)
10月26日	援助マリア修道院のシスターへ活動報告(長崎)
10月27日	長崎純心大学講義(長崎)
10月30日	長崎教区カトリック西町教会(長崎)
10月31日	26聖人記念館で報告会(長崎) コレジオ(神学生の寄宿舎)で報告会
11月 3日	横浜教区カトリック藤枝教会 3地区合同信徒の集いにて報告会(静岡)
11月 7日	新潟教区カトリック米沢教会(山形)
11月 8日	仙台ウルスラ英知学院中学生、高校生へ向けて講義(仙台)
11月 9日	仙台白百合学園中学3年生へ向けた講義(仙台)
11月10日	芝浦工科大学工学部1年生へ向けた講義(埼玉)
11月11日	NPO 法人「芝の会」にて報告(旗の台)

②浅野美幸

2010年10月6日	JLMM 研修生への講義(調布)
10月13日	湘南白百合学園「ステラ会」
10月16日	カンボジア DAY において最新活動報告(四谷)
10月17日	横浜教区カトリック菊名教会

③濱田麻里

2010年11月20日	DBVG(ドンボスコボランティアグループ)
-------------	-----------------------

11月26日 カリタス小学校

④林愛子

2010年10月27日 善きサマリア人修道会奈良修道院(京都教区)

10月28日 京都教区カトリック登美ヶ丘教会

12月2日 サレジオ修道会四日市サレジオ志願院(京都教区)

12月5日 大阪教区青年の集い

8)その他

- ・関係各位へのクリスマスカード送付
- ・プノンペンオフィス移転(1月)

(2) タイ

タイへの派遣は、2000年に一年間のインターンとして、本橋奈々子(東京教区)をウボンラチャタニー教区、ラチャブリ教区、そしてチェンマイ教区のそれぞれのサンカンペン(ダイサック:Diocesan Social Action Center:教区社会活動センター)に派遣したことから始まる。

本橋奈々子を2004年にチェンマイ教区 DISAC へ派遣。DISAC と協働し、少数民族支援(主にカレン族)のための農業指導およびハンディクラフト関連の活動を行い、2006年に任期を終了。

2005年2月17日、日笠山万希子(2004年度・福岡教区)を同 DISAC に派遣。(2008年3月16日任期終了)

2007年3月20日より松本和歌子(2006年度・福岡教区)を派遣。ラフ族の村への訪問活動などを行った。また、サンカンペン公立高校において日本語教師としてタイ人高校生との関わりを持った。2009年9月19日 DISAC との契約を終了し、2009年9月20日より RTRC(Research and Training for Religio - Cultural Community = 諸宗教・文化的共同体のための調査研究所)に配属。RTRC では女性の自立支援を中心に活動を行った。2011年3月10日松本和歌子任期終了帰国。タイへの派遣を一時終了した。

I RTRC 関係活動

1. 対象地域と地域概要

チェンマイ教区 DISAC の歴史は、宣教者たちが少数民族対象の活動を始めた1931年にまで遡るが、正式に設置されたのは1975年で、人的開発のための社会活動を目的としている。CCTD(タイカトリック開発協議会)に属する一組織であり、代表は司教が務める。

タイには現在10教区あり、すべての教区に DISAC が設置されている。それぞれの地域に根ざした活動を実践していることから、教区により活動内容は異なる。タイ北部地方は少数民族が多いことから長年、少数民族との活動を展開してきた。チェンマイ教区 DISAC の活動範囲は、チェンマイ県、チェンライ県、プレー県、ナン県、ランプーン県、ランパング県、パヤオ県、メーホンソン県の北部8県である。

チェンマイ教区 DISAC の活動は多岐にわたり、主に、聖書、女性、青少年、農業、カレン族(リーダー育成グループ、米配給)、諸宗教との対話などが行われ、少数民族などでグループ編成され、それぞれが協力し合い、村において活動が行われている。

DISAC は現在まで30年間カレン族やローカルタイ人のサポートを中心的に行ってきたが、2004年度よりニッポー神父が中心となり、ナイヤナ(DISAC・Catholic Commission for Women チェンマイ代表)、スチャート

(カチン族出身・RTRC ボランティアスタッフ)、スントーン(カレン族・DISAC/RTRC 委員)、トン(ルワ[ラワ]族出身、RTRC)、プッサディ(ルワ[ラワ]族出身、RTRC)、レック(カレン族出身・DISAC)と共に、ラフ族をはじめとして少数民族が抱えている問題について解決していくための活動を展開している。

ニッポー神父が所長を務めるチェンマイ市郊外にあるRTRCは、少数民族のためのセミナーやプログラムが頻繁に実施されており、他のスタッフと共に主に女性を対象としたセミナーやプログラムの実施運営の補助などに携わった。

2. 活動

1) 女性自立支援プログラム

2009年12月に設置した「パラシ・チャイ・プーイン」タイボランティアスタッフが中心となり、ワークショップ等を開催。昨年からのセミナー等によって、ローカルタイグループや村から男性の参加協力も始まった。昨年度からの参加グループの活動報告及び新たな参加呼びかけのプログラムの紹介を行った。

昨年に引き続き、デザイン、品質等の改善及び向上のため、メーサイにある聖家族カトリックセンター(アカ族の女子を対象とした寮。寮生に向けて裁縫も教えている)、チェンマイにある縫製職業訓練校または日本からの意見を参考に、改善に取り組んだ。ラフ族女性のみを対象としたセミナーをRTRC 他部門との協働で開催。

セミナー及びトレーニングプログラムは、必ず他の部門(村でのリーダー育成、農業部門等)と協働して行うようにしたため、村の男性からの理解、協力を同時に得る事ができた。

パラシ・チャイ・プーイン主催のセミナー参加者によって、メーチェム郡に手工芸品製作と裁縫教室を兼ねた施設を10月に開所。メーチェム近郊の村(ローカルタイ・カレン族・ルワ[ラワ]族・モン族)からの素材持ち込みの受け取りを行った。

開所にあたっての経費は、主にパラシ・チャイ・プーインの活動の一つとしている手工芸品の日本での売り上げから支出した。

日本において、神奈川県藤沢市と熊本県水俣市で手工芸品の販売及び活動紹介を常時行った。また、販路開拓や注文の受付、活動紹介パンフレット作成などを協力者が行った。

主な活動内容は次のとおり。

①手工芸を中心としたワークショップまたはセミナーの開催(農業関連を含む場合あり)

女性対象農業・手工芸関連セミナー(4月6日～9日)

②ラフ族の各村において、スタッフが村を訪問し村が抱える問題点を中心に活動を展開。製品の制作等には至っておらず、持続可能な活動の環境づくりを行っている。(トン村[プラオ郡]、パーエー村[チェンライ県ビルマ国境付近]、ウインパパオ郡周辺ラフ村)

③ルワ[ラワ]族の村(ホツ村[メーチェム郡]、パーペー村[メーサリアン郡])において、村で織られている布を「パラシ・チャイ・プーイン」で購入。経済的自立を目指す手工芸技術をもつ女性たち及び職業訓練校等に雑貨の製作を依頼。パーペー村においては手工芸品制作も行われており、製品のチェンマイへの輸送手段も不定期ではあるが確保。

④ローカルタイ女性からの参加促進。昨年に引き続き継続中(ナイヤナ担当)

⑤各自の活動状況報告、手工芸品のデザイン・品質等の話し合い。(不定期)

⑥「金の道銀の道」(神奈川県藤沢市)、道の駅「みなまた」・水俣市ふれあいセンター(熊本県水俣市)において、手工芸品の常時展示販売。

⑦聖家族センター訪問(不定期)

⑧日本人訪問者への手工芸品紹介

⑨ハッキア村より代表者との手工芸品等意見交換(月2回)

※水俣市ふれあいセンターにおいては、水俣市母子連合会の方々の協力のもと、展示販売にあわせ活動紹介も同時に実施。

※「金の道銀の道」、道の駅「みなまた」において、手工芸品と共に活動紹介のパネルを展示。

⑩その他の活動

- ・ カトリック女性委員会会議(5月6日～8日)
- ・ パーペー村訪問・中高生対象環境関連ワークショップ(メーサリアン群ルワ族・5月14日・15日)
- ・ バーンサバイ関係者 RTRC 来訪のため連絡調整(4月26日)
- ・ フェアトレード団体訪問(チェンマイ市内)
- ・ カトリック女性委員会会議
- ・ パーペー村訪問・手工芸関連(メーホンソン県メーサリアン群ルワ族・4月13日～15日)

2) プラオチルドレンホーム

チェンマイ郊外にあるプラオにおいて、RTRC とドイツ人支援者が共同で運営する山岳民族の子ども達を対象にした寮。6歳～18歳までの児童が生活する。

2009年9月より、女性スタッフの退職により新スタッフの雇用及びドイツからのボランティア派遣が決まり、チルドレンホームでの定期的な活動は終了したが、不定期に寄付物品の運搬等を行った。

2011年3月現在、2名の子どもたちがポンパー村より就学中。

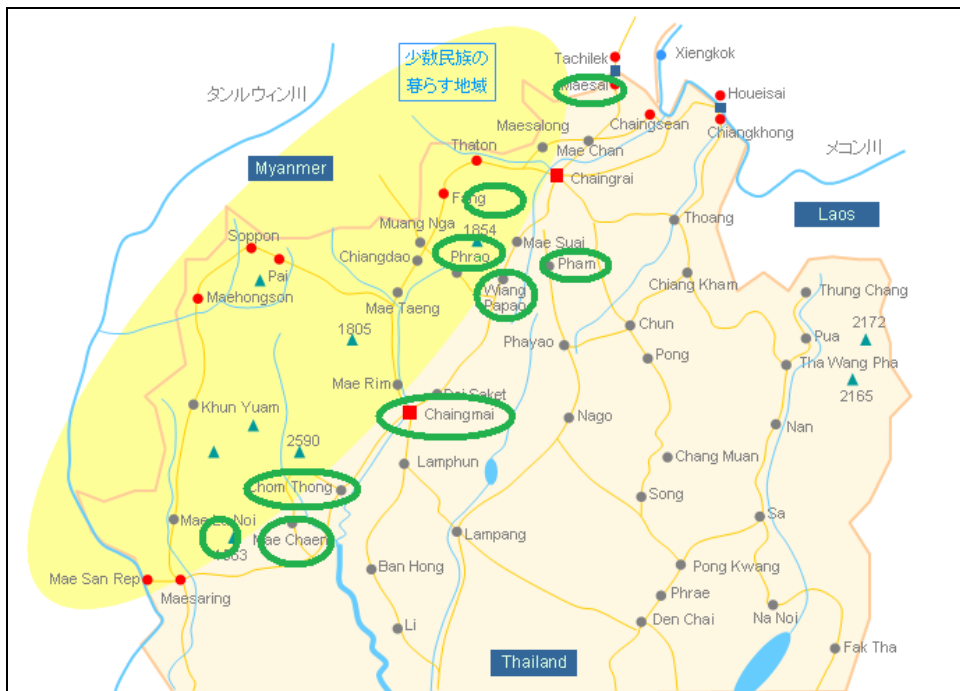
3) ラフ族の活動

2006年5月よりラフ族に対する教育支援が本格化した。2009年メーサイ聖家族カトリックセンターにて就学していた生徒全員が、学習意欲の欠如を理由に自主退学した。これをきっかけに、支援体制の再編が実施。

- ・村において RTRC との協働に関する話し合い。(不定期、主にトン村〔プラオ郡〕)
- ・女性自立支援のセミナーと合わせ、各村でのリーダー育成を目的としたセミナー及びトレーニングプログラムを RTRC 他部門と協働。

4) その他 RTRC 関連の活動

- ・メーチェム郡役場主催環境関連ワークショップ(4月19日)
- ・シンガポールスタディーツアーグループの分かち合いにおいて、JLMM の紹介及びタイでの活動報告を RTRC より依頼され実施。(11月19日)
- ・日本より寄付品(車椅子・未使用切手・寝具・衣類等)の受け入れ連絡調整及び運搬



図：派遣者が主に活動を行った地域(円の箇所)

II サンカンペン中学高等学校(サンカンペンスクール)

1. 対象地域と地域概要

サンカンペン中学高等学校(サンカンペンスクール)は、チェンマイ市内から約20kmに位置する郡立中高一貫校である。生徒数約1,800名。チェンマイでは中規模の学校になる。ほとんどの生徒が、近隣の地域から通学し、100名ほどが学校に隣接している寮から通学。学校周辺は、有名な傘の産地であるため大型の観光バスが行き交う観光地である。サンカンペンスクールの生徒たちの両親のほとんども、商売に関わっている。生徒たちも帰宅後や休日は、家の手伝いに追われている。そのためか、大学への進学希望者よりも、技術校などへの進学希望者が多い。

学校の方針として、語学に重点が置かれ、英語・フランス語・中国語・日本語の各コースがある。日本語は英語の次に生徒数が多いが、卒業後も学習を続ける生徒が最も少ない。これは、チェンマイ県内の大学において、日本語専攻に教職課程がないのが原因である。また公立校において、日本語教師は公務員として正職員の採用枠が無いに等しいためである。

日本語のクラスでは、これまでタイ人教師による授業が行われており、平仮名での読み書きは、どの生徒も特に問題はない。しかし、漢字・会話の授業は、ほとんど行われていなかった。これはサンカンペンスクールに限ったことではなく、タイ全体の日本語教育現場での問題点である。タイ人教師自身が、漢字・会話を不得手としているため、授業は文法中心となっているのが現状である。また、タイの教育現場で、生徒に発言させるということはあまり熱心に行っていない。

サンカンペンスクールでは週3日(月火水)活動を実施。高校1年生から3年生の日本語授業を、タイ人教師と分担して行った。主に、会話と漢字の授業を担当した。

2010年度は生徒の個人的問題が頻発し、保護者との懇談等が頻繁に行われた。また、問題のほとんどが生徒の自主退学という結果となってしまった。

2. 活動

1) 日本語クラス授業(週3日)

高校1年生～3年生の漢字・会話の授業を担当した。

	月	火	水	国家斉唱
1時限	M5(高2)	M6	M4	8:20-9:20
2時限		M5	M6	9:20-10:20
3時限	M4(高1)			
4時限				
5時限		M4		12:20-13:20
6時限			M5	13:20-14:20
7時限	M6(高3)	クラブ活動		
8時限				

2) チェンマイ市内高校生スピーチ大会(年数回)

校内での選抜、スピーチの文章作成・スピーチの指導を行った。

3) 長期休暇中 M5、M6生徒への補習授業(3月中旬～5月上旬)

4) 日本祭、校内文化祭、外部団体訪問時の準備及び当日の業務

生徒への日本語スピーチ指導やゆかた着付け、日本文化紹介等を行った。

5) 北部タイ日本語教師定例会(不定期に参加)

- ・ チェンマイ県・メーホンソン県内学校長会議(於:サンカンペンスクール、7月5日)
- ・ 日本人学生スタディーツアークループ来校・交流会、チェンマイ市内案内等(8月6日)
- ・ 第5回日本祭(8月11日)
- ・ チェンマイ市内日本語学習高校生対象日本語キャンプ(チェンマイナイトサファリ・11月13日)
- ・ 創立記念日行事(11月24日)
- ・ クリスマス行事のための練習
- ・ 日本語クラス課外活動(RTRC において日本料理教室。RTRC スタッフを招待。11月21日)
- ・ 新校長歓迎会(2011年2月1日)
- ・ 日本人学生スタディーツアークループ来校・交流会、チェンマイ市内案内等(2月11日)
- ・ 送別会(2月25日)
- ・ 卒業式(3月7日)

Ⅲ その他の活動

1) ホッ村訪問・YPD 関連ワークキャンプ(メーチェム群ルワ族・4月17日～19日)

2) バーンサバイ(HIV/AIDS シェルター)でのボランティア(不定期・6月30日を以て終了)

バーンサバイ元代表者設立の財団バーンサイターン(HIV/AIDS 感染者のための職業訓練所)での設立準備補助(不定期)

- ・ 職業訓練についての話し合いと準備(毎週)
- ・ ハックア村代表者のバーンサイターン来訪のため連絡・調整

3) Bwe K Ler 小学校、難民キャンプ等[支援金・寄付品等運搬](不定期)

- ・ Mae Tao クリニック訪問[車いす運搬](不定期)

飛んでけ車いすボランティア来訪・メータオクリニックへの車いす受け取り(4月12日)

※Bwe K Ler 小学校:メーソット郊外にある移住者の子ども達の学校。主にビルマカレンの子ども達が、近隣の

村や寮で共同生活をし、この小学校で勉強している。

・ノボ難民キャンプにおいて子供の生活支援をしている女性グループへ、福岡の高校から寄付金。

4) 一時帰国

一年間の活動を終え、次のとおり一時帰国した。

松本和歌子 2010年10月10日～10月21日

5) 報告会等

一時帰国に合わせ、次のとおり各地で報告会等を実施した。

2010年10月12日	日本カトリック海外宣教者を支援する会事務局訪問 金の道銀の道(湘南台)・物品搬入
10月14日	福岡アジア女性センター代表へ手工芸品販売委託
10月16日	北九州市 GGP 学習会において活動報告、手工芸品紹介・販売
10月17日	福岡教区カトリック水俣教会報告会、手工芸品紹介・販売
10月19日	道の駅「みなまた」訪問
10月20日	水俣市ふれあいセンターへ挨拶、物品搬入
10月20日	カノッサ修道女会水俣修道院へ挨拶

6) その他

- a) 日本人訪問者活動地訪問受け入れ
- b) バーンサンタ訪問(6月18日・在サンカムペン日本人代表児童養護施設)
- c) マリナー(チェンマイ)45周年記念行事(12月18日・19日)
- d) RTRC 新年ミサ、パーティー(1月5日)
- e) アジアの風(コングレガシオン・ド・ノートルダム主催のスタディーツアー)DISAC 売店訪問補助(12/29)
- f) JLMM 事務局長チェンマイ訪問(3/2～4)
- g) 日本人スタディーツアーDISAC 売店訪問補助(3/8)

7) 帰国

任期を終了し、次のとおり帰国した。

松本和歌子 2011年3月11日

(3) 東ティモール

1999年に発足した東ティモール東部ラウテン県ロスパロス郡トリスラ地区でプライマリ・ヘルスケアの普及啓発活動を行う現地国際 NGO「東ティモール医療友の会(AFMET)」(現 特定非営利活動法人東ティモール医療友の会)に、薬剤師と看護師を派遣したことから派遣活動を開始。

2006年1月3日、佐藤邦子(名古屋教区)をコーディネーターとして派遣。2008年12月13日、渡邊怜子(横浜教区)を派遣。2010年11月30日深堀夢衣(横浜教区)を派遣した。

佐藤邦子は2011年3月7日に帰国。4月2日に任期を終える。

2010年度は、独立行政法人国際協力機構(JICA)の草の根技術協力事業による「ラウテン県における、地域住民主体のプライマリ・ヘルスケア・システムの構築」事業を2010年4月から8月まで、同 JICA 事業による新規事業『みんなサウダベル』健康村プロジェクト」事業を2011年3月に、RWSSPによるBESIK 事業を2010年4月から2011年3月まで実施。

2010年9月から2011年2月まで自主事業としてクリニック運営を行った。あわせて、2010年9月から20

11年1月にかけて、日本大使館による蚊帳配布事業「マラリア対策保健教育計画プロジェクト」を行った。

I プライマリ・ヘルスケアの普及促進事業

1. CHW スキルアップセミナーの開催(アドバンスセミナー)

第1～7ブロック各村で活動中のCHWに対してナチュラルファミリープランニング(家族計画)について、アドバンスセミナーを実施した。全ブロックにおいて、カトリックの NGO 団体である、CRS (Catholic Relief Service)の協力を得た。全ブロックのセミナー参加率は非常に良好であった。

スキルアップセミナーでは、家族計画のための自然な避妊方法を説明。繊細かつ難しい内容であったため、再度セミナーを実施して欲しいとの要望があり、質問の時間を多くとるなど、参加者の疑問点の解決に努め、対応した。

表1 2010年度アドバンスセミナー

トピックス:	2010年8月23日	第123ブロック:30名(85.7%)
①性感染症について	8月24日	第4ブロック:13名(72.2%)
	8月27日	第5ブロック:14名(70%)
	8月27日	第6ブロック:16名(72.7%)

2. SISCa プログラム

(1)PSF サポート

昨年度に引き続き今年度も政府保健省主催の地域保健プログラム SISCa(Servisu Integrado Saude Comunitaria)に協力した。AFMET はラウテンモロ郡、ロスパロス郡の2つの郡の8つのPost SISCaにおいて、WFP(World Food Program 国連世界食糧計画)から栄養失調児に対して配布されるCSB(Corn Soya Blend)の運搬と、医療チームの移動をサポート、あわせて活動全体のモニタリングを行った。

また、AFMET スタッフが SISCa の問題点を場所別に分析し、SISCa のボランティアであるPSF(Promotor Saude Familia)に対してレベル別のキャパシティビルディングを行った。5月開催のSISCaでPSFに対してトレーニングの実施に関する説明を行い、6月から本格的にトレーニングを始めた。主に、健康教育、衛生教育の方法、母子手帳の記入方法や体重測定、栄養失調児の選別方法などを、①SISCaが行われる数日前にヘルスプロモーションを行う担当のPSFを訪問し、フリップチャートの使い方、説明の仕方などを練習する事前トレーニング、②SISCa当日、実践しながら母子手帳の書き方で分かりにくい箇所や、栄養失調児の見分け方などをその場で練習、アドバイスをするOn-the-jobトレーニングの2つの方法で行った。

2010年4月から8月までは JICA「ラウテン県における、地域住民主体のプライマリ・ヘルスケア・システムの構築」事業として、2011年3月は JICA「『みんなサウダベル』健康村プロジェクト」事業として実施。その他の期間は自主事業として実施した。

各 Post SISCa におけるヘルスプロモーション実施状況と参加人数は表2のとおり。

表2 PSF によるヘルスプロモーション活動 4～8月(JICA 事業終了時まで)

Post SISCa	4月		5月		6月		7月		8月	
	内容	参加	内容	参加	内容	参加	内容	参加	内容	参加
Mainal	環境 衛生	51	寄生虫	74	栄養	120	マラリア 栄養	98	マラリア 栄養	45

Mainall	マラリア 栄養	75	マラリア 栄養	105	マラリア	60	結核	48	栄養	85
Puno	結核	36	マラリア	97	マラリア	99	ISPA	45	下痢 寄生虫	45
Com	皮膚病	49	HIV/ AIDS	74	栄養	55	環境衛生 マラリア	58	結核	65
Lorell	ISPA	34	下痢	32	栄養	20	マラリア	25	中止	—
Leuro	—	—	環境衛生	57	—	—	栄養	19	皮膚病	48
Raca	マラリア	54	下痢	74	栄養	50	マラリア	25	栄養	42

Post SISCa	9月		10月		11月		12月		1月		2月	
	内容	参加	内容	参加	内容	参加	内容	参加	内容	参加	内容	参加
Mahinal	結核 栄養 手洗い	94	下痢 栄養	89	マラリア	79	ISPA	38	栄養	38	未実施	—
Mahinall	母子保 健	—	ISPA マラリア	79	結核	70	栄養	69	下痢	86	下痢	—
Puno	結核	40	マラリア	67	母子の 健康	32	栄養	46	未実施	—	予防 接種	38
Com	ISPA 栄養	36	マラリア 寄生虫 栄養	32	栄養 家族計画	56	栄養	46	栄養	43	栄養	50
Lorell	結核	30	結核	23	栄養	63	栄養	34	未実施	—	マラリア	28
Leuro	母子保 健	18	結核	34	栄養	28	下痢	28	結膜炎	15	マラリア	32
Raca	ISPA	75	産前・産 後のケア	58	ISPA	69	栄養	61	結膜炎	38	下痢	64
Bauro									未実施	—	マラリア	42

1月から SISCaBauro を追加

Post SISCa	3月	
	内容	参加
Mahinal	衛生	—
Mahinall	未実施	—
Puno	衛生	52
Com	ISPA 栄養	53
Lorell	未実施	28

Leuro	栄養	-
Raca	-	-
Bauro	栄養 衛生	15

※ ISPA = 上気道感染

※ - = データ無し(モニタリングスタッフの不足などが原因)

※ 人数=PSF がヘルスプロモーションを実施している時その場にいた大人と、内容を理解できる年齢に達している子ども

(2) KUBASA の支援

BESIK プログラムにおける KUBASA プロジェクトと同様。3月19日に行われたポスト SISCa MahinaII の meja4 において活動評価を実施し、同時に KUBASA 実施時における実地トレーニングを行った。

DTT(District Trainers Team)とMTT(Master Trainers Team)によって、SISCa で実施する衛生プロモーションのトピックを選び、活動計画を作成した。PSF(Promotor Saude Familia)4名が参加した。

3. CLTS(Community Led Total Sanitation)の実施

JICA 事業「ラウテン県における、地域住民主体のプライマリ・ヘルスケア・システムの構築」により CLTS プログラムを実施した。このプログラムは、住民にトイレそのものを支援するのではなく、衛生教育を行い住民がトイレの必要性を感じ、住民自らがトイレを建設するというプロジェクトである。住民自身がトイレを作ることで、維持管理も住民が出来るようになる。

NGOFrateruna と連携し、パイララ村・ナナフォエ村でプロジェクトを実施した。詳細は次のとおり。

4月24日…CLTS コミュニティー説明会、保健衛生教育フィルム上映会開催 於:パイララ村

参加者:GVS(Group Voluntario Saude)、村長、小村長、AFMET、女性グループ長、住民 約70名
CLTS トイレの建設状況について説明。依然53%の住民がトイレを使用していないことについて解決策を話し合った。NGOWaterAID が制作したテトゥン語の保健衛生教育フィルムを上映し、住民の健康に対する意識を高めるきっかけとした。

5月20日…プログラム契約 AFMET・NGOFrateruna +バウロ村・ナナフォエ村44世帯住民

5月28日に住民に向けた CLTS 説明会、6月初旬にトリガリングをすることが決定。

5月28日…CLTS 説明会 於:バウロ村・ナナフォエ村

参加者:ロスパロス郡群長、DNSAS ディレクター、村長、小村長、NGOGCS(Korea)、AFMET、女性グループ長、カテキスタ、住民 約50名

4月にNGOGCS(韓国)が水施設の修理を行っていたことから、共同で説明会を開催。

5月31日～6月1日…CLTS ファシリテーターTOF(Training Of Facilitator)実施

参加者:NGOFrateruna スタッフ2名、AFMET スタッフ3名、NGOGCS スタッフ1名、コミュニティーリーダー2名 計8名

NGOFrateruna の協力により、Julimero 氏(NGOFrateruna)をトレーナーに迎えた。

6月8日…コミュニティーミーティング開催 ナナフォエ村 GMF(Group Management Facilitator)設立

参加者:15名(男性5名、女性10名)

内容:GMF コンセプト、GMF 規約、GMF の役割

6月10日…ナナフォエ村モニタリング実施

トイレ使用世帯 6軒

穴掘り 5軒

6月14日…ナナフォエ村モニタリング実施

トイレ使用世帯 17軒

穴掘り 6軒

6月15日…GMF、能力向上トレーニング実施

於:バウロ村・ナナフォエ村 参加者:15名(男性5名、女性10名)

内容:各 GMF ポジションの仕事内容の説明

6月15日…GMF、CAP(Community Action Plan)トレーニング実施

参加者:6名(AFMET スタッフ2名、NGO Frateruna スタッフ4名) Facilitator:Julimero 氏(NGO Frateruna)

内容:CAP ファシリテートの仕方、CAP の目的説明

6月23日～25日…GMF 代表者、NGO Plan 主催の CAPトレーニングに参加 参加者:3名

6月24日…ナナフォエ村モニタリング実施

トイレ使用世帯 20軒

穴掘り 6軒

6月14日…ナナフォエ村モニタリング実施

トイレ使用世帯 20軒

穴掘り 6軒

7月6日…GMF(Group Management Facilitator)、CAPトレーニング実施

於:バウロ村・ナナフォエ村 参加者:20名(男性7名、女性13名) Facilitator:Julimero 氏 (NGO Frateruna)

内容:CAP: 1.TransitWalk 2.Stakeholder Analysis 3.Seasoning calendar 4.problem Analysis 5.Action plan

7月9日…GMF、BCC(Behavior Change Communication)トレーニング実施

於:バウロ村・ナナフォエ村

参加者:20名(男性8名、女性12名) Facilitator:Juvencio(AFMET)

内容:1.BCC コンセプト 2.コミュニケーションスキル 3.プレゼンテーションスキル 4.住民の行動変容について

7月13日…GMF、サニテーションマーケティングトレーニング実施

於:バウロ村・ナナフォエ村 参加者:15名(男性5名、女性10名) Facilitator:Julimero 氏、Mateus 氏(NGO Frateruna)

内容:便器の作り方 2.基本的なマネージメントの仕方

7月27日、28日…GMF、コミュニティー訪問・PHC 活動 手洗いステーションについてのデモンストレーション

於:バウロ村・ナナフォエ村

参加者:18名(男性8名、女性10名) 27日/訪問件数:17件、28日/訪問件数:18件 計35件

7月29日…ナナフォエ小学校 衛生教育実施

参加生徒数:130名(男子50名、女子80名)

内容:手洗いのデモンストレーション、ヘルスプロモーション練習(マラリア・下痢・歯磨き)
ナナフォエ村 夜間 PHC フィルム上映会実施
CLTS デモンストレーションフィルム、マラリアドラマ、下痢フィルム

8月11日…GMF(Group Management Facilitator)、パイプメンテナンストレーニング実施

於:バウロ村・ナナフォエ村 参加者:14名(男性3名、女性11名)

内容:道具の使用方法、蛇口の使い方・修理方法、継続的に使用する方法、燃料管理

8月17日…GMF ナナフォエ村、GVS(Group Voluntario Saude)パイラ村のクロストレーニング実施
於:パイララ村

参加者:31名

内容:メンバー紹介、サンニテーションマーケティング紹介、活動紹介、問題点ディスカッション、
マーケティング協力について

8月27日…ナナフォエ村モニタリング実施

トイレ使用済み世帯 18軒(51%)

トイレ設置途中 7軒

取り組みがない 10軒(28%)

トイレ設置途中や取り組みのない世帯へのアプローチ対策を検討。

4. CLTS (Community Led Total Sanitation)実施後の調査と衛生教育

JICA 事業で行った、ナナフォエ村の CLTS プログラムのモニタリングを継続して行った。あわせて、手洗いなどの衛生教育も実施した。

保健省主催の World Sanitation Day EXPO にも参加し、GVS(Group Voluntario Saude)メンバーが「50ドル以下でできる衛生的なトイレ賞」を受賞。

2月にはカンボジアの NGO が CLTS の視察としてナナフォエ村を訪問し、AFMET スタッフが案内した。

9月1日～30日 ナナフォエ村モニタリング 35軒中31軒トイレ設置完了

9月21日～24日 ナナフォエ村モニタリング Door to Door 35軒をインタビュー

10月1日 ナナフォエ村モニタリング 31軒トイレ使用 4軒は依然トイレ使用に意欲なし

10月6日 ナナフォエ村清掃

10月13日 ナナフォエ村清掃

10月15日 World Hand Washing Day 手洗いキャンペーン参加

ナナフォエ村の GMF(Group Management Facilitator)が35軒を個別訪問し、手洗いについてファシリテートした。

10月29日 ナナフォエ村エバリュエーションミーティング 参加 GMF27名

11月15日～19日 NGO Fraterna 主催、CLTS ファシリテーショントレーニング参加

11月19日～20日 World Sanitation Day Sanitation EXPO 参加・出展

1月20日 他の村の GMF とのクロストレーニング

1月25日 他の村の GMF とのクロストレーニング

2月2日 保健省 Sanitation Marketing 視察に AFMET スタッフ4名参加

5. 総合的衛生モデル村の形成

JICA 新規事業『みんなサウダベル』健康村プロジェクト」事業において、CLTS によってトイレが設置され

た村落で、安全な水の供給を行い、トイレの使用と組み合わせた総合的衛生モデル村の確立を計画。

総合的衛生村は、①CLTS(Community Led Total Sanitation)によって一つの村のトイレ使用率が100%近くまで向上する。②住民が主体的に水供給システムの整備や衛生活動を実践し、衛生環境が向上する。③児童の保健衛生に関する意識が向上することを目指す。

モデル村が形成されることで、他の村もモデル村を参考に、衛生環境に関する意識の変化、向上を狙う。2010年3月に、モタラ村でモデル村の形成活動を開始した。

3月16日…モタラ村プログラムソシアリゼーション

参加者:モタラ村村長、カテキスタ、住民29名(男性12名、女性17名)、ラウテン県 SAS(Servisu Aqua Saneamentu)、VIVACIOUS(水会社)、AFMET

内容:住民に対してプログラムの説明を行い、実施計画を話し合った。

3月23日…モタラ村 CAP(Community Action Plan)トレーニング実施計画作成

参加者:ラウテン県 SAS、AFMET

内容:2011年4月に実施予定の CAP トレーニングの項目を選定した。

6. BESIK プログラム

RWSSP(オーストラリア・エイド)による BESIK(Bee, Sanitaneamentu no Ijene iha Komunitade / 地域給水衛生改善)事業を2010年4月から3月まで実施した。

(1) 衛生プロモーション

Pairara(パイララ)村、小学校において衛生プロモーションを実施。

(2) Liquica(リキサ)県 Maubara(マウバラ)郡 石鹼製造プロジェクト

FINI(Fuan Ida Neon Ida / CGRC: Cooperative Group Representative Committee)メンバーによる石鹼製造プログラムと保健衛生をあわせたプログラムを、他県(リキサ県)において実施した。FINIと同じような機能を持つリキサ県の組織GMF(Group Management Facilitator)に対し、トレーニングを実施。住民が石鹼を使い、手を洗うことで下痢疾患を減少させることなどを伝えるとともに、石鹼製造法を伝えた。FINI(ラウテン県)と GMF(リキサ県)において薬用石鹼を製造、頒布することで、東ティモール国内において地域産業市場の拡大も狙う。

(3) Lautem(ラウテン)県 KUBASA プロジェクト

SISCa プログラムの一環で、KUBASA(Katagorizasaun Uma Bazea ba Saude Ambiental:全家庭の環境衛生調査の意)支援を行った。SISCa(I-2参照)における meja4活動の一環。

Meja とは、テトゥン語で机のことを意味し、SISCa には全部で6つの机(部門)がおかれる。meja 4はフリップチャートなどを用いて、コミュニティーに向け環境衛生を促す役割を持っている。

SISCa の保健ボランティア PSF(Promotor Saude Familia)が、自分の村にある全家庭を年2回訪問し、家庭内や周囲の環境チェックを行う。PSF は家の人と交渉しながら、どんな家庭環境が健康に良いかを話し、衛生環境に対する気づきと環境改善を促す。また、SISCa meja4 の場を利用し、衛生的に良い環境に変化した家をモデルとして提示し、より多くの住民に、モデルを参考に自分の家庭環境を意識し、改善するように促した。

活動内容は次のとおり。

プログラム	日付	内容
2.Liquica	4月8日	CGRC ファシリテータートレーニング実施 CGRC16名参加
2.Liquica	4月27日	Liquica 県調査準備 NGOWaterAID と会議
2.Liquica	4月30日	GMF(Group Management Facilitator)、Liquica 県調査説明会
2.Liquica	5月6日～7日	Liquica 県調査
1.衛生	5月18日	衛生教育 BCC(BehaviorChangeCommunication)マテリアルトレーニン
1.衛生	5月31日	前年度 BESIK プログラムのモニタリング・評価(パイララ村)
2.Liquica	5月31日	調査打ち合わせ ICS(Intitusaun Ciensia Saude)
2.Liquica	6月9日、10日	CGRC PCM(ProjectCycleManagement)トレーニング実施 CGRC18名参加
1.衛生	6月18日	パイララ村 GVS(GroupVoluntarioSaude)、BCC マテリアルトレーニン
1.衛生	6月21日～25日	パイララ村 GVS による“Fase Liman キャンペーン”実施
1.衛生	7月2日～28日	SISCa、小学校において FINI による“Fase Liman キャンペーン”実施
2.Liquica	7月13日	ICS において、“Hygiene Marketing”プログラム 於 Liquica 県 調査計画プレゼン *保健省の規則として、調査・活動リコメンデーションをもらうとき、ICS でのプレゼンテーションを することとなっている。
2.Liquica	7月19日～27日	Liquica 県調査、トレーニング実施
2.Liquica	7月29日	パイララ村 GVS “手洗いステーション”のモニタリング実施
1.衛生	8月12日	パイララ村 GVS 保健省による評価
1.衛生	8月13日	PSF、FINI メンバー 保健省による評価 (Mahinal,Luarai)
1.衛生	9月30日	パイララ村小学校、フォローアッププログラム(衛生教育プログラム)協議会実施
1.衛生	10月8、9日	衛生教育プログラム(マラリア予防・下痢)実施 於パイララ村小学校
1.衛生	10月15、16日	パイララ村小学校教師に対し、衛生教育実施(ヘルスプロモーション、マラリア、デ ング、下痢、手洗い)
1.衛生	10月22日、23日	パイララ村 GVS とパイララ村小学校生徒による村へのモニタリング実施 (村の中のどこに手洗いステーション・トイレがあるか調べる。また、トイレのない家は、子どもから 両親に対して提案する。)
1.衛生	10月30日	パイララ村小学校コンペティションイベント開催
3.Lautem	11月18日	KUBASA プログラム説明会 於保健省 AFMET,HealthNet,RWSSP 参加
3.Lautem	11月24日	PSF に対して、KUBASA 説明会実施
2.Liquica	12月1日	FINI CGRC に対し、“HygieneMarketingTraining”の説明会実施
	12月2日	BESIK プログラム関係機関ミーティング参加(AFMET,WaterAID,NGOCARE)
2.Liquica	12月3日	WaterAID 主催、HygieneMarketing 説明会実施 於 Liquica 県 県知事、SAS、保健省、村長、NGO 参加
2.Liquica	12月6日	Liquica 県保健局に対し、Hygiene Marketing 説明会実施
3.Lautem	12月13日～17日	Behavior Change Promotion Program Lautem 調査説明会実施 7つの対象地域(Rasa,Bauro,Mahinal,MahinalI,LoreII,Puno,Com)においてベースライ ン調査を実施

2.Liquica	12月15日～17日	Liquica 県の GVS に対し、FINI による Hygiene Marketing 石鹼製造トレーニング実施
2.Liquica	1月5日～7日	石鹼製造トレーニング実施 @Liquica 県 Maubara 郡 Lisa 村 トレーナー:FINI
2.Liquica	1月10日～14日	石鹼製造トレーニング実施 @Liquica 県 Maubara 郡 Lisa 村 トレーナー:FINI
2.Liquica	2月11日	NGO WaterAID と Liquica プログラムの打ち合わせ
2.Liquica	2月11日	Liquica 県 CDE(Centro Desenvolvimento Empresarial)とトレーニングの打ち合わせ
3.Lautem	2月17日	RWSSP と BESIK プログラムについての打ち合わせ
2.Liquica	2月21日～24日	Liquica 県 Bou raevei 小村に対し、GVS による衛生教育実施
3.Lautem	3月2日	DTT(District Trainers Team)トレーニング実施 KUBASA の新マテリアルについて
	3月8日	女性の日 WASH イベント参加
3.Lautem	3月15～17日	7つの対象地域(Rasa,Bauro,Mahinal,Mahinal,Lorell,Puno,Com)の PSF に対するトレーニング実施

7. マラリア対策保健教育計画プロジェクト

2010年2月に在東ティモール日本大使館より、住友化学のオリセットネット(蚊帳)を住民に配布する「マラリア対策保健教育計画プロジェクト」の実施を、AFMET のCG「FINI」に委託したいとの依頼を受け、2010年9月から2011年1月まで実施した。

- ① CG の活動する18の地域で CG メンバーが住民1家族に1つの蚊帳を配布。
- ② 配布する際、マラリアなど環境衛生に関わる疾患に関する健康衛生教育を行い、住民が蚊帳を有効利用できるよう促す。
- ③ 配布後、CG メンバーが使用状況のモニタリングを行う。

オリセットネットは住友化学が開発した長期残効型防虫蚊帳で防虫剤が蚊帳の糸の中に練りこまれ、洗濯等により表面の薬剤が落ちて中から徐々に染み出し防虫効果が5年以上持続する蚊帳。

東ティモール全土では様々な組織が蚊帳を配布しているが、事前に蚊帳を利用する意義や用途を十分に説明せず一方的な配布にとどまるケースも多く見られ、配布を受けても蚊帳を使わずに転売してしまったり、魚を取るための網にしてしまうなどの結果となってしまう。また、東ティモールの多くの一般家庭では1つのベッドに3～4人の子どもが寝ることが一般的であるが、子ども1人に1つの蚊帳を配るなど一律の配布を行うことにより、配布した蚊帳が無駄になるケースも発生している。

こうした現象を予防するため、本プロジェクトでは、住民により組織された CG メンバーが自分達の住む村内の家庭を事前に調査し、必要な蚊帳の数を把握した。また配布時には、蚊帳の意義や使用方法を十分に説明すると同時に、もうすでに蚊帳を利用している場合、薬剤が糸に練りこんであるオリセットネットの特徴を生かして、玄関や部屋の入り口に暖簾の代わりに下げたり、網戸として窓に取り付けたりするなど、蚊を家に入れないための工夫した使い方なども紹介した。

本プロジェクトは、各 CG 長で組織する FINI メンバーのコーディネート力・ファシリテート力の養成も目的の一つとした。また、実施をサポートした AFMET スタッフのプロジェクト管理能力の向上につながった。

事業終了後、日本大使館において、プログラム実施結果報告を行う機会を得て、AFMET スタッフが発表した。報告の中で、マラリアの予防は蚊帳の配布だけではなく、今後も継続した意識啓発などのプログラムが必要であることを強調した。当日は東ティモールの新聞社「TimorPost」とラジオ局「RadioTimor」の取材があり、後日新聞に掲載された。

プロジェクト実施内容は、次のとおり。

日付	内容
9月1日	蚊帳配布ミーティング 就業規則・仕事内容の確認
9月13日	プロジェクト開始 活動計画作成
9月13、14日	11の村(Fuiloró,Rasa,Bauro,Leuro,Lorel,Lorell,Soro,Com,Pairara,Mahinal,MahinalII)において、 村長にプロジェクトの説明を行った。
9月15日～24日	11の村の軒数、人口調査を行った。(ターゲット軒数:4,505軒、人口:20,984名)
9月20、21日	BCC(BehaviorChangeCommunication)トレーニング マラリア予防の行動変容について
9月23日	プログラムすりあわせ会合 CGRC コアメンバー、AFMET、県保健局、GlobalFound 参加
9月29日	CGRC 活動準備ミーティング
9月30日	CGRC 各村のコミュニティー活動開始
10月4～16日	各村において、蚊帳配布・マラリア予防セミナー開催 (24か所、4,454世帯)
10月19日	CGRC モニタリングトレーニング実施 モニタリングの目的・方法について説明
10月20日～23日	各村において、モニタリング実施
10月25日	モニタリングシート回収、CGRC 最終エバリュエーション
10月27日、28日	Focus Group Discussion(Lorel,Com,Bauro) モニタリング
10月29日	公共施設・修道会寮・学生寮へ蚊帳を配布。
10月29日	最終エバリュエーション
1月31日	蚊帳プロジェクト最終プレゼンテーション 於:日本大使館会議室

8. アドバイザー、フィリップ氏による評価 (コミュニティー評価・CGRC 評価・GVS 評価)

2010年4月にAFMETのアドバイザーであるフィリップ氏を迎え、CGLeuro・CGLorelにおいて、将来、自分たちの村をどのようにしていきたいかコミュニティーリーダーたちが目標計画を作成し、村の現状分析・問題解決には何が必要かを話し合った。8月には再度フィリップ氏を村に迎え、目標達成の評価、研修を行った。

4月22日:参加者16名、Leuro

4月23日:参加者16名、Lorell

8月4日:参加者31名、Leuro (21名)、Lorell(10名)

コミュニティー評価にあわせ、CGRC・GVS(Group Voluntario Saude)の評価も行った。AFMETの支援を受けている受益者がどんな思いなのかを聞き出すために、グループディスカッションを行い、AFMETの活動を振り返る機会とした。

8月3日:参加者18名、CGRC

8月5日:参加者16名、GVS Pairara 村

9. その他

4月16日に県保健局、NGO MDM-P(Medicos do Mundo Portugal)に働きかけ、3者共催でラウテン県ロスパロス郡におけるKJPS(Komisaun Jestaun Programa nivel Suco)会議を開催した。今会議では、ロスパロス国立病院長の参加も得られた。KJPSとは、コミュニティーリーダー(村長、Aldeia 長、女性リーダー)を指し、この会議の中で、SISCaの実践におけるKJPSの役割の再確認、それぞれの村のSISCa実施における問題点とその解決策、責任者の構成などが話し合われた。

AFMET スタッフ2名が参加するとともに、2010年度のモニタリング結果、SISCaにおけるAFMETの役割、プロジェクト内容を説明し、また、PSFの能力不足に伴う問題を解決するため、PSFに対してトレーニングを行っていくことを発表した。ロスパロス郡の10の村から、それぞれ村の議会のメンバー52名が参加した(72.2%)。会議開催後は、それぞれのPost SISCaでKJPSの協力体制に改善が見られた。

8月17日、18日に保健省主催のSISCa・BCC(Behavior Change Communication)ワークショップに参加した。各県のDPHO、WHO、関係NGO団体、保健省ヘルスプロモーション担当者が集まり、①6カ月のSISCaプログラムの評価、達成事項、改善点、②KJPS確立のための基本方針案の検討、③BCCトレーナーマニュアル作成の意見交換を行った。ラウテン県DPHOが好事例として他県に対し活動報告を行い、AFMETとの協力体制も評価された。また、KJPSの立ち上げをAFMETが先立って行ったことが評価され、引き続きDHSとの協力のもとKJPSの支援をしていくことが確認された。

II 健康に関する住民へのサービス及び知識・情報提供事業

1. 学校保健プログラム

パイロット校において学校保健プログラムを全7回実施した。ファシリテーターとしてAFMETスタッフ、県保健局スタッフ、CHW、PSFが参加した。第3回の学校保健セミナーでは、県保健局の栄養課長、副局長(栄養士)が参加し、学校が抱える問題(特に給食制度)について意見交換を行った。

生徒たちが幼少期から自らの健康について考え、保健衛生に対する意識を高める良い機会となった。生徒たちだけではなく、教職者、CHWやPSFも保健衛生・健康についてより理解を深め、ファシリテートすることで自らの能力向上にも繋がった。また、学校保健プログラムの展開に向け、地域保健行政と協力し、連携の強化につながった。

JICA事業「ラウテン県における、地域住民主体のプライマリ・ヘルスケア・システムの構築」による実施(4月～8月)。詳細は次のとおり。

第1回 6月19日:COM村小学校、4・5・6年生92名、教師1名

内容①フリップチャートを利用した話し合いやクイズ、ゲーム。

②学校給食プログラム実施。

第2回 6月26日:COM村小学校、4・5・6年生92名、教師2名

内容①手洗いの歌の合唱、石鹸で手を洗ってから給食を食べた。

②学校給食プログラム実施。

③AFMETが作成した保健の教科書を教師と生徒に配布。

第3回 7月3日:COM村小学校、4・5・6年生92名、教師1名

内容①栄養ボードゲーム、フリップチャートを利用して栄養バランスの良い食事、栄養の取り方、栄養失調など栄養に関するすべてのトピックを生徒たちに説明。

②生徒に向け、栄養の歌を指導。

③栄養担当の教師を授業に巻き込み、栄養ボードの使い方を説明。2枚の栄養ボードを学校に寄与。

④学校給食プログラム実施。

第4回 7月17日:COM村小学校、4・5・6年生92名、教師1名

内容①正しい手の洗い方、衛生的な家についてわかりやすく説明。

②学校内の環境チェックを生徒たちと共に行い、ごみの捨て方、分別の仕方、蚊の

生息場をなくす方法などの説明。

③クラスごとに手洗いステーション(蛇口付きバケツ、石鹸、タオル)を設置し、授業を受けていない低学年の生徒には高学年生徒が手の洗い方を指導。

④学校給食プログラム実施。

第5回 7月24日:COM 村小学校、4・5・6年生92名

内容①保健省支給のフリップチャートを利用して結核について生徒に説明。

②歯磨きの仕方について実演しながら説明し、歯磨きの歌を指導。

③学校給食プログラム実施。

臨時回 8月24日:COM 村小学校、教師9名

内容①「良いファシリテーター」の説明。

②授業の中で利用できるゲームの紹介。

③栄養ボードの使い方の説明。

④下痢・脱水、マラリア・デング熱、結核、目の病気・口腔衛生、環境衛生、栄養についての説明。

最終回 8月26日:COM 村小学校、学校保健コンペティション開催

内容①生徒が6チームに分かれ、1チームに1人担当教師がつき練習を行い、セミナーで学んだことを各チームが発表。

②発表の内容:教科書の暗記、生徒たちが自ら作成した劇や歌。発表されたものには審査員が採点し、1～3位のグループに景品贈呈を行った。

2. クリニックの運営

今年度は、2010年4月から12月までの間、週3日(月曜日、火曜日、金曜日)午前8時から11時まで、AFMET クリニックを開いた。クリニックの受付は CHW(Community Health Worker)に協力を依頼しており、交通費を支給した。

また、2011年1月からは県ロスパロス病院よりキューバ人医師とキューバで研修を終えたティモール人の医学生の派遣を受け、月曜日から金曜日までクリニック活動を実施。

なお、2010年4月から8月までと、2011年3月は JICA 事業により実施し、2010年9月から2011年1月から2月までは自主事業により実施した。

詳細は次のとおり。

2010年4月

来院患者数:596名(男性 230 名、女性 366 名)

主な疾患名:マラリアの疑い 31.35%、上気道感染 15.66%、下痢 0.27%、皮膚疾患 1.76%、その他 50.96%

5歳未満:132名 5歳以上:464名

AFMET のクリニックで治療中の結核患者8名から6名に減少(4月中に2名投薬完了)

リフェラル件数:1件

5月

来院患者数:626名(男性 238 名、女性 388 名)

主な疾患名:マラリアの疑い 37.29%、上気道感染 12.64%、肺炎 3.37%、皮膚疾患 2.12%、その他 44.58%

5歳未満:115名 5歳以上:511名
AFMETのクリニックで治療中の結核患者5名
リフェラル件数:2件

6月

来院患者数:543名(男性247名、女性296名)
主な疾患名:マラリアの疑い36.38%、上気道感染14.44%、肺炎4.22%、皮膚疾患2.86%、その他42.1%
5歳未満:107名 5歳以上:436名
AFMETのクリニックで治療中の結核患者6名
リフェラル件数:1件

7月

来院患者数:299名(男性63名、女性236名)
主な疾患名:マラリア陽性14.95%、上気道感染15.68%、肺炎7.10%、皮膚疾患3.67%、下痢1.71%、
その他56.89%
5歳未満:63名 5歳以上:236名
AFMETのクリニックで治療中の結核患者6名
リフェラル件数:7件

8月

来院患者数:500名(男性一名、女性一名/データ無し)
主な疾患名:マラリア陽性14.78%、上気道感染19.57%、肺炎4.78%、皮膚疾患3.62%、下痢1.88%、
その他55.37%
5歳未満:99名 5歳以上:401名
AFMETのクリニックで治療中の結核患者8名
リフェラル件数:1件

9月

来院患者数:433名
主な疾患名:マラリア陽性15.86%、上気道感染23.9%、肺炎8.03%、皮膚疾患2.48%、下痢3.25%、その他
46.48%
5歳未満:87名 5歳以上:346名
AFMETのクリニックで治療中の結核患者8名
リフェラル件数:1件

10月

来院患者数:648名
主な疾患名:マラリア陽性16.45%、上気道感染18.82%、肺炎3.38%、皮膚疾患0.56%、下痢3.49%、その他
57.30%
5歳未満:186名 5歳以上:462名

AFMET のクリニックで治療中の結核患者 6 名

リフェラル件数:0 件

11月

来院患者数:694 名

主な疾患名:マラリア陽性 17.34%、上気道感染 22.20%、肺炎 10.84%、皮膚疾患 0.17%、下痢 2.08%、その他 47.37%

5 歳未満:194 名 5 歳以上:500 名

AFMET のクリニックで治療中の結核患者 6 名

リフェラル件数:2 件

12月

来院患者数:443 名

主な疾患名:マラリア陽性 10.53%、上気道感染 20.47%、肺炎 7.86%、皮膚疾患 1.33%、下痢 3.11%、その他 56.70%

5 歳未満:127 名 5 歳以上:316 名

AFMET のクリニックで治療中の結核患者 6 名

リフェラル件数:1 件

2011年1月

来院患者数:373 名

主な疾患名:マラリア陽性 6.92%、上気道感染 14.46%、肺炎 13.84%、皮膚疾患 1.01%、下痢 5.29%、その他 58.48%

5 歳未満:87 名 5 歳以上:286 名

AFMET のクリニックで治療中の結核患者 8 名

リフェラル件数:2 件

2月

来院患者数:437 名

主な疾患名:マラリア陽性 7.41%、上気道感染 23.26%、肺炎 4.51%、皮膚疾患 1.02%、下痢 4.07%、その他 59.73%

5 歳未満:97 名 5 歳以上:340 名

AFMET のクリニックで治療中の結核患者 7 名

リフェラル件数:1 件

3月

来院患者数:622 名

主な疾患名:マラリア陽性 10.12%、上気道感染 26.19%、肺炎 2.50%、皮膚疾患 0.48%、下痢 2.62%、その他 58.09%

5 歳未満:130 名 5 歳以上:492 名

AFMET のクリニックで治療中の結核患者 10 名

リフェラル件数:1 件

Ⅲ プライマリ・ヘルスケアを目的としたコミュニティー事業

1. CG 代表者会議(Cooperative Group Representative Committee=CGRC)

CGRC の運営・活動補助

一昨年度、CGRC は、CG「FINI(Fuan Ida Neon Ida)」として発足。2ヶ月に1度の定期的なミーティングの他に、行事などの際、必要に応じて臨時ミーティングを行った。それぞれの村での活動報告、石鹸の販売状況、品質管理方法、薬草園の状況、EXPO(博覧会・展示会)の情報など全てのグループへ最新情報を提供すると共に、それぞれのグループの活動フォローアップ、情報収集を行った。

JICA 事業「ラウテン県における、地域住民主体のプライマリ・ヘルスケア・システムの構築」による実施。

表3 CGRC 会議日程とその内容

開催数	日付	内容	参加数
第9回	4月7日	NGODAI の Dili スーパーマーケットにて石鹸の販売の情報・販売価格、薬草トレーニング日程、FINICGRC 能力向上支援の日程、CG フォーラム開催計画、石鹸販売出納帳について	16名
第10回	5月5日	石鹸の価格・グループ管理・BOP プログラム・薬草トレーニングアップデート・CG フォーラムについて	16名
臨時	7月23日	CG フォーラムにむけての準備、打ち合わせ	16名

2. CG の発足と活動

(1) 薬草栽培に関する研修の実施

昨年度、計16の CG で薬草栽培に関する研修を実施し、薬草園作り、薬草苗植え付けが終了した。2つの CG は場所の選定やメンバーが集まらないことなどから、薬草園の設置は行わなかった。各CGで進捗状況に多少の差があるものの、進行の早いCGは、薬草のパッケージを作成するトレーニングを受け、自らのコミュニティーやマーケットで販売した。CG の状況・外的条件も見ながら、薬草園設置・販売の方針や予定を決めていく。

JICA 事業「ラウテン県における、地域住民主体のプライマリ・ヘルスケア・システムの構築」による実施。

薬草トレーニングの進行状況は表4のとおり。

表4 CG に対する薬草トレーニングの日程と内容

日程	CG	内容
4月5日	Chay-Titilari	1種類の薬草植え。薬草パッケージ作成トレーニング
4月8日	Codo Atas	6種類の薬草を植栽準備
4月12日	Luaray	薬草パッケージの完成
4月22日	Lorell	薬草園の完成
5月13日	Puno	薬草パッケージ(マラリア)作成トレーニング
5月25日	Shomocho	薬草パッケージ(皮膚病、アカプルコクリーム)作成トレーニング
5月26日	Rasa	薬草パッケージ(マラリア、腫炎)作成トレーニング
5月27日	Lorell	CG メンバーの家族が亡くなり実施できず

(2) 研修の実施

6月に、将来に向け CG のメンバーが自分たちで石鹸を販売し、管理していくことを可能にするため、キャパシティ向上を目的としたトレーニングを CDE (Centro Desenvolvimento Empresarial・ビジネストレーニングセンター) の職員に依頼し、CGRC メンバーに向けて実施した。PCM (Project Cycle Management) に関しては、AFMET スタッフがトレーニングを行った。JICA 事業「ラウテン県における、地域住民主体のプライマリ・ヘルスケア・システムの構築」による実施。

8月には、新型石鹸作成のためのトレーニングを実施。新型石鹸作成は、石鹸の型を小さくし、1度に600個の石鹸を作成することで、より効率的に石鹸のコストを下げることを目標とした。型が小さく、従来型より高い技術が必要とされるが、見栄えもよく、首都 Dili でのスーパーマーケット販売などに適している。

表5 CGRCに向けたトレーニングとその内容

日付	内容
5月10日	ビジネストレーニング打ち合わせ 於:CDE (AFMET スタッフと CDE スタッフ)
6月9日、10日	CGRC PCMトレーニング実施 (AFMET スタッフ)
6月14日、15日	CDE ビジネストレーニング CGRC 評価
6月21日～25日、 28日(計6日間)	CGRC ビジネストレーニング“HIN”(Hadia Itania Negosiasaun) (CDE スタッフ2名)
8月25日	新型石鹸作りトレーニング実施 (AFMET スタッフ)
8月31日	前回欠席者対象 新型石鹸作りトレーニング実施 (AFMET スタッフ)

(3) 薬草石鹸製作と頒布

昨年度から、ロスパロス市内の7軒の商店、市場(メルカド)、で薬用石鹸の頒布を行っている。首都 Dili では、NGO Alola Foundation のタイスショップ、NGO Yayasan Hak を通じ、各キヨス(売店)で、NGO KorTimor のローカルプロダクツショップで石鹸の頒布を行った。2010年5月には、NGO KorTimor から1,500個の石鹸の受注を受け、納入した。

JICA 事業「ラウテン県における、地域住民主体のプライマリ・ヘルスケア・システムの構築」による実施。

2009年度、NGO DAI (USAID) の「Buy local production プロジェクト」を通じて Dili 市内のスーパーマーケットなどの店舗で石鹸を売ることが出来るようになった。DAI のプロジェクト終了後も継続して販売しているスーパーマーケットがある。今後は、AFMET が仲介するのではなく、CGRC メンバー自身が継続した販売を目指し、営業・在庫確認・搬入・管理をできるよう、キャパシティ向上に沿ったトレーニングが必要であることから、CDE(Centro Desenvolvimento Empresarial・ビジネストレーニングセンター)や他機関と連携し、CGRC に向けたトレーニングを継続していきたい。

各 CG・AFMET クリニックで、コミュニティーに向けた薬草石鹸の販売は今年度も継続して実施した。

(4) EXPO (博覧会・展示会)等への参加

JICA 事業「ラウテン県における、地域住民主体のプライマリ・ヘルスケア・システムの構築」により EXPO 等に参加した。

5月19日～20日 CG Forum (AFMET&FINI 主催 Lospalos) 協力:NGO Concern

7月31日 CGForum (AFMET&FINI 主催 Lospalos) FINI 最終イベント

5月19日～20日 CG Forum は、東ティモールの独立記念日にあわせ、AFMET と FINI が主催し、NGO Concern の協力のもと開催した。CGメンバーが参加し、ヘルスプロモーションを兼ねて薬草石鹸と薬草を販売。石鹸販売個数140個、薬草30パックが売れ、売り上げは83ドルだった。売り上げ計算や在庫管理が明確になり、石鹸の質も安定してきた。

7月31日に開催されたCG Forum は、CGRC 最後のイベントであったため、準備等すべてCGRC が主体となり実施した。18CG 中1CG が、当日大雨のため交通手段がなく不参加だったが、17CG92名が参加した。副県知事・CDE スタッフ・DHS(District Health Service)スタッフ・NGOForum スタッフ・MahinaI と MahinaII のセフィ(長)を招いた。フォーラム内容は、FINI の活動報告・各 CG の活動紹介・CDE ビジネストレーニング 修了書授与式・BCC(Behavior Change Communication)マテリアルセミナー・BCC マテリアル配布。招待客からもFINI の活動に関する理解が深まったとの声があった。また、BCC マテリアルを配布したことで、今後のFINI の自立に繋がった。FINI の中心メンバーの働きによって、CG Forum はスムーズに進行し、よい幕引きとなった。なお、石けん、薬草の販売収益はCGRC に還元した。

12月11日、Alola Foundation 主催のローカルプロダクト物産展にCG Chaultur が出展し、石鹸48個を販売した。

(5) スタディーツアー

8月28日、29日 参加者18名

CGRC のメンバーが Baucau と Dili でスタディーツアーを行った。訪問先では、FINI の石鹸について技術的な話し合い、意見交換が行われ、CGRC メンバーにとって意義のあるものとなった。

JICA 事業「ラウテン県における、地域住民主体のプライマリ・ヘルスケア・システムの構築」による実施。

表6 訪問先とその内容

訪問先	内容
Haribul FINI (Baucau・Canosa 会)	互いのCGシステム、石鹸作成の際に使用する道具の意見交換。
Liader、LandMark(Dili 市内スーパーマーケット)	石鹸販売者の意見を聴いた。
Bairopite クリニック	薬草を販売しているクリニックで、診断のポイントを聴いた。

(6) FINI メンバーによる石鹸製造トレーニング

11月9日、10日に FINI メンバー2名がトレーナーとなり、ドンボスコ農業学校の生徒・教師12名に対し、農業ビジネスの一環として石鹸製造トレーニングを実施した。今後、ドンボスコの生徒が石鹸販売の計買うはないが、ココナツオイルを使用した地域産業として、必要であればトレーニングを継続してほしいと依頼を受けた。

(7) CG の活動調査

2011年3月から実施する JICA 新規事業に向け、全18CG に対してCG活動の現状を調査した。

2月15日 : Chay, Lorel

16日 : Leuro, Soro, Motara, Bauro

17日 : ComAtas, ComBawah, Sikara

18日 : Rasa, Puno, Pairara

21日 : MahinaI, MahinaII, KodoAtas

24日 : Chaultur, Shomocho

(8) FINI の自立支援(リフォルマ CG)

「生活保健助け合いの会」(CG) 18グループは、2008年に設置され石鹼・薬草の製造販売を行ってきたが、8月に JICA 事業が終了してから、石鹼・薬草の作成・販売を継続したグループは少なかった。今後、FINI グループが AFMET から自立し、彼ら自身で地域産業として石鹼や薬草などの販売・管理をしていくことができるよう、CG 一つ一つの問題点を改善していく必要がある。また、CG18の長で構成されている CG 代表者会議 (CGRC:Cooperative Group Representative Committee FINI) を今一度活性化し、つながりを強化し、将来、政府が認定するコーポラティブグループとなるよう支援を行った。

活性化された CGRC を通して CG の能力が強化され、保健衛生に関する生産活動により住民の現金収入も向上するよう、①CGRC の定期的会議の実施 ②生産物のマーケティング支援③試験的な新規生産物の開発支援 ④能力向上プログラムの実施 ⑤CG の地域物産展・健康イベントへの参加支援を行う。

④能力向上プログラムの実施については、今後も CDE(Centro Desenvolvimento Empresarial)や他の技術移転を支援する組織との連携を強めていく。2011年度には、CDE に CGRC に向けた「Stock Control 生産物の管理」、「Commercialization 市場拡大」のトレーニングを要請することを計画している。

こうしたことから、3月に各 CG で会議を行い、問題点や改善点を明らかにし、改善に努めた。また、今後の活動について次のとおり話し合いを行った。(JICA 新規事業)

リフォルマ CG 会議詳細

CG	日付	参加数	CG	日付	参加数	CG	日付	参加数
Leuro	3月7日	5/6名	Luarai	3月21日	6/8名	Mahinal	3月30日	4/4名
Pitileti	3月8日	15/32名	Puno	3月23日	6/7名	KodoAtas	3月31日	7/9名
Sikara	3月10日	7/9名	Soro	3月24日	6/9名			
KodoBawah	3月14日	7/13名	Raca	3月25日	5/12名			
Lorel	3月15日	3/11名	Pairara	3月28日	5/6名			
Chay	3月18日	2/5名	ComBawah	3月29日	6/10名			

(ex 3/4…メンバー4人中3人参加の意)

IV 地域医療行政との連携・協力事業

1. 地域保健行政との連携

(1) 保健及び開発行政と他の NGO との会合

保健及び開発行政、他の NGO との連携に向け各種会合等に出席した。内容は次のとおり。

日付	内容
4月20日	保健省主催の Behavior Change Communication(BCC) マテリアルミーティングに AFMET スタッフ2名が参加
4月22日	保健省に提出予定の結核プログラムの提案書に関して副県保健局長とミーティングを行った AFMET スタッフ1名が参加
4月26～30日	保健省主催の“MTT(Master Trainers Team)トレーニング”に AFMET スタッフ2名が参加

5月10日、11日	保健省主催の District Sanitation Policy 説明会に AFMET スタッフ2名が参加
5月13日	NGO Forum in Los Palos に AFMET スタッフ1名が参加
5月26日	DNSAS 主催の BESIK 会議に AFMET スタッフ1名が参加
5月28日	CSI ロスパロス会議に AFMET スタッフ 1 名が参加
5月31日	保健省主催の”Sanitation WG”に AFMET スタッフ1名が参加
6月14日～17日	県保健局主催の DTT (District Trainers Team)トレーニングに AFMET スタッフ 1 名が MTT、3 名が DTT として参加
6月18日	NGO CRS (Catholic Relief Service)主催の TB プログラム関係機関ミーティング参加
6月23日	県保健局主催の定期会議に AFMET スタッフ 1 名が参加
6月24日	NGO CRS 主催の TB プログラム関係機関ミーティング参加
6月25日	NGO Forum 会議 Lautem に AFMET スタッフが参加
6月30日	保健省主催 BESIK プログラム調査についての会議に参加
7月1日	NGO CRS 主催の TB プログラム関係機関ミーティング参加
7月9日	NGO CRS 主催の TB プログラム関係機関ミーティング参加
7月15日	NGO Forum 会議 Lautem に AFMET スタッフが参加
7月16日	保健省主催の“Mid Term Review”会議に AFMET スタッフが参加
7月20日	DHS Meeting (in Los Palos)参加
7月22日	NGO Plan 主催の BESIK 会議に参加
8月3日～5日	NGO Forum 全国会議 (in Liquica)に参加
8月6日	県保健局、MDM、NGOFrateruna 関係機関ミーティングに AFMET スタッフ参加
8月9日	NGO ONE 農業プログラム(in Nanafoe)に参加
8月17日、18日	保健省主催 SISCa・BCC WorkShop に参加
8月19日	NGO Forum 会議 Lautem に AFMET スタッフが参加
8月20日	DHS(District Health Service)主催の豚インフルエンザ会議参加
8月23～27日	WaterAID 主催の Eco Sanitation トレーニング参加
8月25日	CVTL(Red Cross) コミュニティーミーティング参加 (in Com)
9月5日、6日	NGOSHARE 主催 PHC(Primary Health Care)トレーニングに AFMET スタッフ 2 名が参加
9月7日、8日	TVTL 国連番組撮影 FINI 石鹸プログラム (CG Pitileti,SISCa MahinaI,AFMET クリニック)
9月16日	NGO Forum(NGO13 団体)に AFMET も参加
9月20日	県保健局主催の豚インフルエンザ会議に出席
9月22日	CRS が NGO アセスメント評価のため AFMET を訪問
9月24日	SanitationWG(Working Group)(臨時) World Hand Washing Day のイベント説明
9月28日	NGOFraterna BESIK 活動説明会に参加
9月30日	SanitationWG
10月11～15日	NGOSHARE クロスビジット
10月13日	RWSSP 主催 ジェンダーバランスについての会議に参加
10月14,20,26, 28日	World Hand Washing Day 映画祭開催 (MahinaII,Leuro,MahinaI,Cacavei 村にて)
10月15日	World Hand Washing Day イベント実施 (MahinaII 村)
10月18日	県保健局主催のレギュラーミーティングに参加

10月18日	Ministry of Justice 主催 テイモールの法律についての説明会に出席
10月19日	保健省主催のKJPS(Komisaun Jestaun Programa nivel Suco)会議に参加
10月20日	SAS(Servisu Aqua Saneamentu)ラウテン主催 WorldWomenDay イベント参加
10月21日	NGO Forum 会議に参加
10月25日	ラウテン県庁主催 NGO、政府共同会議に参加
10月26日	NGO SDTL(Sanitation Development Timor Leste)主催 Sanitation 会議に参加
10月27日	UN 主催 デモクラシック会議に参加
11月10日	ODA 視察団訪問 AFMET のナナフォエ村 CLTS 活動見学
11月13日	NGO SDTLトイレ支援活動協力
11月22日～26日	MTT(Master Trainers Team) KUBASA ワークショップに AFMET スタッフ 2 名参加
11月29日	CVTL(赤十字)主催 HIV/AIDS ワークショップ参加
11月30日	NGO Plan 年間活動計画ワークショップ参加 @ラウテン県教育局
12月7日～11日	SAS ラウテン主催 CAP Facilitate Training に AFMET スタッフ 2 名参加
12月23日	世界の医師団、県保健局主催 PSF イニシアティブトレーニング協力
1月21日	保健省 JICA プログラムプレゼンテーション
1月31日～2月5日	CRS カンボジア クロストレーニング
2月1日	県保健局月間ミーティングに参加
2月9、10日	保健省主催 Sanitation Marketing ワークショップ参加
2月15～17日	DTT トレーニング AFMET の MTT スタッフ 2 名がファシリテーターとして参加

(2) 政府結核プログラムの実施

結核プログラムは、AFMET の看護師と結核トレーニングを受けた CHW が村中の家を一軒一軒回って結核が疑われる症状のある人を探し(スウィーピング)、疑いのある人の喀痰検査を3度行う。陽性反応の場合、AFMET クリニックでの治療、または CHW により DOT (Direct Observation Treatment) 方式による投薬が行われる。毎日確実に適量の薬を飲む必要があるため、特に高齢の場合や身近に投薬の手助けができる家族が居ない場合、CHW が投薬を管理し、毎回 CHW の見ている前で薬を飲むようにした。

投薬期間は8ヶ月(インセンティブフェーズ 2 ヶ月、コンティニューフェーズ6ヶ月)である。喀痰検査で陰性反応あり、咳が続いている場合は、抗生剤を10日間投与する。その後症状がなければ疑いは消えるが、症状が続く場合はレントゲン検査をバウカウ病院で実施する。

協力を依頼する PSF 及び CHW に対し、プログラム実施前に結核トレーニングを実施した。5月26日、27日にラウテン県保健局結核プログラム担当者、政府結核プログラムのラウテン地域担当者を講師として招き、ラウテン県ラウテンモロ郡の3つの村の PSF 及び CHW を対象にセミナーを実施し、AFMET スタッフ2名も出席した。

7月6日に DHS で開催された「National TB Program」の四半期評価では、DHS と AFMET が協力して行ったこの結核プログラムがラウテン県の目標カバー率を飛躍的に高めたとし、高い評価を受け、引き続き結核患者のスウィーピングを行ってほしいとの要請を受けた。

9月24日、25日には保健省主催のメディカルスタッフを対象とした「National TB Program Refresher Training」に AFMET スタッフ1名が出席し、12月と2月には再びスウィーピングを行った。

第1回のスウィーピング結果は次のとおり。

回	日付	地域/世帯	陽性	疑い	バウカウ搬送	協力
1	6月7日～11日	Com 村、Vailovaia・Muvapuso・ Lohomato 小村 /225 世帯	4 名	35 名	0 名	CHW/PSF 6 名

2. 他機関連携

3月8日…カリタス主催 平和構築ワークショップ AFMET スタッフ 1 名参加

内容:平和構築、家庭内暴力の防止について、また、デイリとラウテンのユースグループ間の信頼関係を築くためのワークショップが行われた。

3月21日…保健省主催 薬剤課ワークショップ AFMET スタッフ 1 名参加

内容:薬品管理、各県におけるクリニックの問題点などに関して保健大臣を交えて意見交換を行った。

3月24日…ラウテン県 SAS(Servisu Aqua Saneamentu)主催 「World Women's Day」イベント参加

内容:女性の WASH(Water And Sanitation Hygiene)プログラムへの参加を促すワークショップが行われ、プロモーション映画が上映された。

3月29日…NGO フォーラム 定例会 AFMET スタッフ 1 名参加

内容:ラウテン県の電気の供給に関して、NGO フォーラムとして 24 時間供給の要請を EDTL(電力局)に行うための計画を立てた。

3月29日～30日:Nutrition Adovocacy 会議 AFMET スタッフ 2 名参加

内容:県保健局の担当者と共に、今後 SISCa において啓発活動を行っていくにあたり、ラウテン県における活動計画を作成した。

V 人材の育成・研修事業

1 アジア保健研修所(AHI)カンボジア研修への参加

アジア保健研修所(AHI)がカンボジア NGO PADEK にて行う国際ワークショップ、「健康と平和に関するセミナー」に AFMET スタッフのジュベンシオが参加した。また県保健局のジルベルト氏を推薦し、同セミナーに AFMET から参加した。

期間:2011年3月21日～28日

会場:カンボジア シェムリアップ NGO PADEK

2 CRS カンボジア結核プログラムスタディーツアーへの参加

1月29日～2月13日まで、AFMET 日本人スタッフ渡邊怜子が NGO CRS(Catholic Relief Service)主催のカンボジア結核プログラムスタディーツアーに参加した。

3月7日に、CRS スタディーツアーでの学びをもとにプレゼンテーションを行い、NTP(National TB Program)に対して提言した。参加者:CRS、NGO KD(Kuribur Domin)、DTC(District TB Coordinator)リキサ、CCT(Cooperativa Café Timor)、NTP、AFMET

3 他団体(NGO)との協働

AFMET の活動の充実に向け、他 NGO と積極的に協働した。

(1) AFMETと協働している主な NGO、AID

・NGO

SHARE(日本)、CRS(アメリカ)、Medicos do Mundo Portugal(ポルトガル)、Concern(アイルランド)、Plan-International(イギリス)、YayasanHAK(東ティモール)、Alola Foundation(オーストリア)、Fraterna(東ティモール)、LOL(アメリカ)、NGO FORUM(東ティモール)、Water Aid(オーストリア)、聖母訪問会メハラ修道院(日本)、ドンボスコフィロロ(東ティモール・サレジオ会)

・AID

RWSSP(オーストリア)、DAI(アメリカ)

(2) 政府関係機関

日本大使館

独立行政法人 日本国際協力機構

国連世界食糧計画

世界保健機構

政府保健省(MoH)

政府インフラ省水道課(SAS)

政府経済開発省ビジネス課(CDE)

政府観光商業産業省(MTCI)

ラウテン県県庁(Administrasaun)

ラウテン県保健局(DHS)

ラウテン県教育局(Edukasaun)

VI その他の活動

1 一時帰国

一年間の活動を終え、次のとおり一時帰国した。

佐藤 邦子 2010年4月12日～4月26日

2011年3月 7日～3月30日

渡辺 怜子 2010年9月18日～10月8日

2 アジア保健研修所(AHI)刊「アジアの子ども」編さん協力

アジア保健研修所(AHI)(愛知県日進市)が作成、配布する「アジアの子ども」の東ティモール編作成に協力。AFMET スタッフのアリノ・ゴンザガの生い立ちを紹介した。

3. ラジオ出演

NHK ラジオ、「地球ラジオ 日本チャチャチャ」に渡辺怜子が出演し、活動や生活環境などについて語った。

日時:2010年11月6日(土) 午後6時16分頃から5分間

4 報告会

一時帰国に合わせ、次のとおり各地で報告会を行った。

佐藤邦子

2010年4月18日 名古屋教区カトリック平針教会

渡邊怜子

2010年9月19日 横浜教区カトリック津久井教会

2010年9月26日 横浜教区カトリック横須賀三笠教会

2010年10月3日 横浜教区カトリック大和教会

3. 評価・調査活動

I 事業評価

2010年度は独立行政法人国際協力機構の NGO 海外プロジェクト強化のためのアドバイザー派遣制度を始めて活用し、カンボジアにおけるステンミエンチャイ地区の活動評価を行った。

(1) 派遣アドバイザー: 田中博氏

(2) 派遣期間と日数: 2010年6月24日から9月1日までの38日間 (うち、海外35日間、国内3日間)

行程	内容
6/24(木)、6/30(水)、 7/9(金)	東京事務局において評価計画と評価設計
7/17(土)～7/19(月)	JLMM カンボジア評価打合せ&評価のブリーフィング
7/20(火)～7/21(水)	評価設計Ⅰ:関係者分析、評価目的共有、事業内容確認
7/22(木)～7/24(土)	評価設計Ⅱ:評価設問、データ収集方法・指標の設定
7/26(月)～8/4(水)	データ収集:質的(PRA/KJ 法等) & 量的調査(質問紙等)
8/5(水)～8/7(土)	データ分析&判断、結果の団体内での共有 事務局長参加:8/8-8/17
8/9(月)～8/14(土)	新規事業立案のための調査及びワークショップ、関連団体訪問など
8/16(月)～8/17(火)	結果の共有や参考資料の入手など
9/1(水)	まとめ
10/20(水)	JICA にて終了報告

II 調査活動

(1) カンボジア

JLMM カンボジアを訪ねステンミエンチャイ地区での活動、コンポンルアンでの活動、シェムリアップで活動の視察、調整をスタディーツアー等も兼ねて行った。

2010年 7月29日～ 8月18日 漆原比呂志

2010年 9月 3日～ 9月 9日 漆原比呂志、辻明美

2010年11月15日～11月20日 辻明美

2011年 2月 6日～ 2月21日 漆原比呂志、辻明美

2011年 2月23日～ 3月 2日 漆原比呂志

(2) タイ

チェンマイ DISAC、RTRC を訪れ、現地での活動状況視察、調整を行った。

2011年 3月3日～ 3月 5日 漆原比呂志

(3) 東ティモール

現地 AFMET を訪れ、事業の運営についての調整などを行った。

2010年 6月19日～ 6月27日 金山重之

2010年 7月 1日～ 7月 9日 酒井信明運営委員長、漆原比呂志

2011年 3月27日～ 4月 4日 金山重之

(4) ミャンマー

今後の派遣の可能性を探るため、ミャンマーを訪問。チャールズ・ボ司教と面談した。

2010年 6月14日～ 6月21日 漆原比呂志

(5) モンゴル

今後の派遣の可能性を探るため、モンゴルを訪問。ウエンズ司教と面談した。

2010年 5月23日～ 5月29日 漆原比呂志、辻明美

4. 研修

2010年度は2009年度に研修実施を見合わせた2名をあわせ、計5名の派遣候補者を迎え研修を実施した。

信徒宣教者派遣候補者として相沢雅弘(東京教区・秋津教会)、石田咲子(東京教区・成城教会)、小野武(仙台教区・元寺小路教会)、篠田正司(京都教区・唐崎教会)、深堀夢衣(横浜教区・由比ガ浜教会)の研修を2010年4月8日から11月13日まで行った。

研修所は、コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院内にある友愛の家を引き続き借用した。

オリエンテーション 2010年4月8日(木)～9日(金)

通常授業 2010年4月12日(月)～10月20日(水)

研修内容は次のとおり。

(敬称略)

	講師	研修名	
	Sr. 古賀綾子(幼きイエス会)	大人のカテケージス	通年月曜日
	Sr. Jean Michalec(メリノール女子修道会)	英語で学ぶ環境問題	通年月曜日
	ムケンゲシャイ・マタタ神父(淳心会)	福音書と宣教	通年月曜日
	森一弘司教	日本の福音宣教(生涯養成コース)	前期火曜日
	漆原比呂志	JLMM の生き方	通年火曜日
	Sr. 高橋睦子(幼きイエス会)	自分を知る	通年水曜日

	Sr. Elizabeth Kato(メリノール女子修道会)	英語	通年水曜日
	大森志帆	教会史	通年木曜日
	Sr.小野恭世(イエズス孝女会)	共同体づくり	通年木曜日
	鈴木 隆	信徒の霊性	前期2回、後期2回
	浜崎眞実	典礼	7月14日、10月13日
	Sr.キャサリン(メリノール女子修道会)	禅体験	4月26日
	高橋智史	体験分かち合い	5月17日
	出崎慎也	OB体験分かち合い	5月20日
	AA	薬物依存症	7月5日
	酒井信明	JLMM について	7月6日
		DV	9月7日
	本田 まり	生命倫理	9月16日
	渡邊怜子	活動分かち合い	9月28日
	倉田厚	分かち合いとミサ	9月30日
	浅野美幸	活動分かち合い	10月6日
	芝浦と場	芝浦と場研修	10月14日
	DARC	薬物依存症	10月15日
	植松 功	テゼ	11月18日

また、研修所等における学習だけではなく、長期海外研修など体験を交えた研修を行った。

体験学習は次のとおり

	期間	研修名	内容
	2010年4月9日から 2010年4月11日	セルフエンカウンター	講話や分かち合いと通じて、自分自身と出会う
	2010年5月23日から 2010年5月30日	川崎体験	労働問題、滞日在日外国人問題等について中原教会(川崎市)に宿泊しながら、神奈川シティユニオンや大韓キリスト教会等において学ぶ
	2010年6月22日から 2010年6月27日	かなの家	「ラルシュ・かなの家」(静岡県)において、知的ハンディを持つ仲間と共に生活をしながら、作業やかかわりの中で「ともに生きる」ことの大切さを学ぶ

2010年8月1日から 2010年8月30日	長期海外研修	中国における日本の歴史、中国の教会の現状、少数民族、中国の近代化などのテーマを、中国を巡りながら調べ学ぶ。前半後半でグループを分け、決められた条件のもと各グループで行程を決め自主的な研修とする。 中間エバリュエーション:8月16日～17日(西安)
2010年10月25日から 2010年10月26日	ハンセン病問題から見直す信仰	国立駿河療養所において、自治会の方々から話をうかがい、日本におけるハンセン病の歴史、現状を通じ、人権について学ぶ
2010年9月25日	長期海外研修報告会	長期海外研修の報告を行う

こうした研修のほか、2回の黙想、週末の活動等を通じ、自分を見つめ、ミSSIONナリーとして派遣されるための見極め、また準備期間とした。

中間、最終黙想の期間、指導及び会場は以下のとおり

中間黙想 期間:2010年7月15日～17日
指導者:ハルノコー・アントニウス神父(淳心会)
会場:霊性センターせせらぎ (東京都練馬区上石神井4-32-11)

最終黙想 期間:2010年11月1日～3日
指導者:アモロス・マヌエル神父(イエズス会)
会場:霊性センターせせらぎ (東京都練馬区上石神井4-32-11)

また、将来派遣地において教会や他のNGOなどと連携し活動する経験につなげることや、日本での人とのネットワークを深め支援者を増やすことなどから、例年どおりアポストライトスを行った。受け入れ先及び研修生は次のとおりである。

横浜教区カトリック相模原教会(小野)
横浜教区カトリック貝塚教会(相沢)
横浜教区カトリック中原教会(篠田)
横浜教区カトリック由比ガ浜教会(深堀)
東京教区カトリック成城教会(石田)
女性の家 サーラー(深堀)
山友会(相沢)
山友会クリニック(篠田)
川崎シーメンズ(小野)

5. 派遣

研修を終了した5名の信徒宣教者の派遣を行った。

また、所属小教区において派遣挨拶を行った。

派遣者

相沢 雅弘(東京教区秋津丘教会)	カンボジア	2011年1月5日派遣
小野 武(仙台教区元寺小路教会)	カンボジア	2011年1月5日派遣
篠田 正司(京都教区唐崎教会)	カンボジア	2011年1月5日派遣
深堀 夢衣(横浜教区由比ガ浜教会)	東ティモール	2010年11月30日派遣
石田 咲子(東京教区成城教会)	カンボジア	2011年1月5日派遣

派遣式

2010年11月13日(土) コングレガシオン・ド・ノートルダム 調布修道院

小教区での派遣挨拶

2010年11月28日(日) カトリック由比ガ浜教会(深堀)

2010年11月21日(日) カトリック元寺小路教会(小野)

2010年12月19日(日) カトリック唐崎教会(篠田)

2010年12月26日(日) カトリック成城教会(石田)

6. 派遣候補者の募集と選考

2011年度派遣に向けた派遣候補者の募集を2010年8月より10月まで行った。

今年度は、昨年度に引き続き応募者増と当会の活動の周知を行うため、派遣候補者募集説明会を実施した。JLMM の活動紹介並びに派遣候補者募集に関する説明や相談を行った。

派遣候補者募集説明会(JLMM 活動報告会と併催)

1) 札幌会場

日時:2010年9月19日(日)15時30分から

会場:札幌教区ベネディクトハウス 1階会議室

2) 東京会場

日時:2010年9月25日(土)15時30分から

会場:フランシスコ会聖ヨゼフ修道院 1階ホール

3) 名古屋会場

日時:2010年7月17日(土)18時から

会場:カトリック南山教会 マリア館集会室2

4) 大阪会場

日時:2010年7月18日(日)16時30分から

会場:大阪大司教区教区本部集会室

5) 長崎会場

日時:2010年8月29日(日)15時30分から

会場:カトリックセンター長崎

また、派遣候補者には6名の応募があり、2010年11月23日(火)に派遣候補者選考試験を実施。5名合格した。なお、合格者1名は体調不良により、2011年度の研修参加を見送ることとなった。

選考委員は次のとおり。

酒井信明運営委員長、小林誠副運営委員長、浜崎眞実運営委員、徳恵利子運営委員、Sr.エリザベス・カトウ、Sr. 高橋睦子、漆原比呂志事務局長

7. 午後のバラエティータイム

週末や祝祭日に集中しがちなイベントを多くの方々に参加いただける機会を設けるため、昨年度に引き続き午後のバラエティータイムを開催した。

開催時期及び内容は次のとおり。

	日付	会場	内容
第1回	2010年8月20日(金)	チャペルセンター	夏休み学生ボランティア DAY
第2回	2010年11月22日(月)	メリノール宣教会本部	座禅体験
第3回	2011年1月21日(金)	JICA 広尾地球ひろば	カンボジア映画 「カンボジアへある家族の夢」 「ニューイヤーベイビー」

8. MDGs 参加

「2015 年までに世界の貧困を半減すること」などを旨とする世界の約束である「ミレニアム開発目標：Millennium Development Goals (MDGs)」キャンペーンに参加した。

各種会議に参加するほか、ニュースレター「ミッション」への記事掲載、チャリティーコンサートでの PR、チラシによる MDGs 紹介などを行った。

1) 会議参加

①MDGs カウントダウンキャンペーン

日時:2010年4月19日

②MDGs カウントダウンミーティング

日時:2010年8月13日(JICA 広尾地球ひろば)

③国連 MDGs レビューサミット

日時:2010年9月22日(電通ホール)

2) ニュースレター「ミッション」への記事掲載

139号:目標1 140号:目標2

3) チャリティーコンサートでの PR

ウタウ ツナガル MDGs JLMM ゴスペルチャリティーコンサート

4) チラシでの紹介

イースター募金「2015をあきらめない」

9. 東日本大震災支援

3月11日14時46分宮城県牡鹿半島沖を震源として発生した東日本大震災の被災地支援に向け、仙台教区サポートセンター立ち上げに協力した。

また、ホームページ等において、被災地ボランティア募集を行った。

現地支援:2010年3月19日～27日

10. ゴスペル

派遣地での派遣者と現地の方々との「つながり」と同様、日本国内においても「つながり」をもち、連帯していくことを目指し、2007年度創立25周年記念式典に向け結成したゴスペルクワイアを再結成。継続して活動を行った。

指導に布施多真美さん、嶋武万里子さんのお二人を迎え、月3回程度の練習を通じ、自分達らしいゴスペルクワイアを目指した。

練習会場:六本木フランシスカン・チャペルセンター聖堂もしくは地下ホール

練習日:4/15、4/22、5/6、6/11、7/8、7/23、8/21、9/10、9/24、10/7、10/15、10/21、11/11、11/19、12/17、2011/1/6、1/14、1/20、2/3、3/3

また、東京教区が行った平和旬間平和を願うミサにおいて、ゴスペルを披露した。

日時:2010年8月14日(土)午後3時

会場:カトリック関口教会 大聖堂

11. チャリティーコンサート

今年度は、次のとおりチャリティーコンサートを開催した。

～ウタウ・ツナガル・MDGs～

JLMM ゴスペルコンサート

日時:2011年2月5日(土)午後2時開演

会場:カトリック築地教会 聖堂 (東京都中央区明石町 5-26)

来場者数:150名

また、bit(代表:金内真紀氏)主催によるチャリティーコンサートが開催された。

日時:2010年11月28日(日)午後2時開演

会場:カトリック由比ガ浜教会 聖堂 (鎌倉市由比ガ浜 1-10-35)

12. CAMBODIA DAY

昨年度に引き続き、カンボジアスタディーツアー参加者の同窓会を兼ねた「CAMBODIA DAY」を企画、開催した。

当日は、一時帰国中の浅野美幸と高橋真也によるカンボジア活動報告を行い、参加者とともにカンボジアでの体験や思い出を分かち合った。

開催日時:2010年10月16日(土)午後2時

開催会場:ニコラ・バレ・ハウス 地下ホール (千代田区六番町 14-4)

参加者:36名

13. フェローズ制度

キリスト教信徒ではない、もしくは短い期間でも派遣を希望する者に向け、2010年度新たな試みとして、フェローズ制度を設置し試行的に実施した。

施行に際しては、フェローズ委員会を発足し、内容の検討を行った。

2010年度は1名の応募があり、一日研修を実施。派遣式を行い2011年2月に13日間カンボジアへ派遣した。

フェローズ委員会委員:小林誠副運営委員長、岸野真理子運営委員、大垣俊朗運営委員、漆原比呂志事務局長、辻明美

委員会:

- 第1回:2010年 4月23日(金)午後 2時 六本木事務局
- 第2回:2010年 6月22日(火)午後 2時 六本木事務局
- 第3回:2010年10月22日(金)午前10時 六本木事務局
- 第4回:2010年11月26日(金)午後 2時 六本木事務局

派遣者:山崎恵

派遣先:カンボジア シェムリアップ

派遣期間:2011年2月16日～28日 13日間

活動内容:林愛子とともに、シェムリアップ教会活動の補助

一日研修:

日時:2010年11月16日(火) 午前10時から

会場:六本木事務局

講師:小林由加氏、大垣俊朗運営委員、漆原比呂志事務局長

派遣式:

日時:2011年11月16日(火) 午後3時30分から

会場:フランシスコ会聖ヨゼフ修道院 小聖堂

14. 広報

(1)ミッション(ニュースレター)発行 他

ミッションNo.129～134 計6号を以下のとおり発行した。

No.	発行日	部数	内容
No.135	2010年5月25日	3,150部	<ul style="list-style-type: none">・2010年度新派遣候補者からのご挨拶・東ティモール便り(渡邊怜子)・JLMM 活動報告会&募集説明会 in 名古屋・大阪のお知らせ・スタディーツアーのご案内
No.136	2010年7月25日	3,150部	<ul style="list-style-type: none">・カンボジアからの手紙(浅野美幸)・特集!研修生は今!・カンボジアからの手紙(高橋真也)・タイからの手紙(松本和歌子)・JLMM 活動報告会&募集説明会 in 長崎・札幌・東京のお知らせ・スタディーツアーのご案内

No.137	2010年10月25日	3,150部	<ul style="list-style-type: none"> ・カンボジアからの手紙(林愛子) ・中国長期海外研修報告会 ・タイからの手紙(松本和歌子) ・JLMM 活動報告会&募集説明会終了! ・カンボジアからの手紙(濱田麻里) ・グローバルフェスタ出展! ・派遣地決定および派遣式のご案内
No.138	2010年12月15日	3,150部	<ul style="list-style-type: none"> ・2010年度派遣式開催! ・タイからの手紙(松本和歌子) ・カンボジアからの手紙(高橋真也) ・カンボジア映画上映会開催のお知らせ ・JLMM GOSPEL チャリティーコンサートのお知らせ ・新連載「もっと知りたい MDGs」のお知らせ
No.139	2011年2月5日	3,150部	<ul style="list-style-type: none"> ・「もっと知りたい MDGs」MDGs って何? ・MDGs 第1弾「目標1 極度の貧困と飢餓の撲滅」(浅野美幸) ・ティモールからの手紙(渡邊怜子) ・「もっと知りたい MDGs」掲載スケジュールのお知らせ
No.140	2011年3月20日	3,150部	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと知りたい MDGs「目標2 初等教育の完全普及の達成」 カンボジア・タオム村(林愛子) カンボジア・コンポンルアン水上村(高橋真也) カンボジア・ステンミエンチャイ(浅野美幸) ・「ウタウ ツナガル MDGs」JLMM ゴスペルコンサートご報告 ・2010年度研修開始のおしらせ

(2) 広告掲載等

カトリック新聞におおむね月1回年14回広告を掲載した。()は掲載サイズ

- 2010年 4月18日 イースター募金(3段1/4)
- 2010年 5月 2日 イースター募金(3段1/4)
- 2010年 5月23日 イースター募金(2段5cm)
- 2010年 6月20日 スタディーツアー カンボジア参加者募集(2段5cm)
- 2010年 7月18日 スタディーツアー カンボジア参加者募集(2段5cm)
- 2010年 8月22日 平和祈念募金(2段5cm)
- 2010年 9月26日 2011年度派遣候補者募集(2段1/2)
- 2010年10月17日 2011年度派遣候補者募集(2段1/2)
- 2010年11月21日 クリスマス募金(3段1/4)
- 2010年12月12日 クリスマス募金(2段5cm)
- 2011年 1月23日 派遣者のためのお祈りください(2段5cm)
- 2011年 1月30日 派遣者のためにお祈りください(2段5cm)
- 2011年 2月20日 派遣者のためにお祈りください(2段5cm)
- 2011年 3月31日 イースター募金(2段5cm)

(3) チラシ配布

1) 広報チラシ作成配布

JLMM の広報、会員募集、募金を目的として郵便振替用紙付きカラー版チラシを作成し国内の教会へ配布した。

平和祈念募金「聞こえる？ ボクの声」	20,000部作成(2008年7月)
クリスマス募金 「今年も新たに5名の新派遣者が誕生しました」	20,000部作成(2008年11月)
イースター募金「2015をあきらめない」	20,000部作成(2009年3月)

2) 広報用リーフレット作成配布

JLMM 活動紹介リーフレット(カラー、A4版三つ折)の内容を見直し、作成、配布した。(5,000部)

(4) 新聞・雑誌記事掲載

福音宣教(オリエンズ宗教研究所刊)

2010年4月号	信仰を分かち合って生きる(漆原比呂志・松本和歌子)
2010年5月号	貧しさとゆるしの中で(漆原比呂志・高橋真也)
2010年6月号	人間の力を信じる(漆原比呂志・佐藤邦子)
2010年7月号	隣人であるために(漆原比呂志・近藤西紀)
2010年8・9月号	創造的に生きる(漆原比呂志・小林由加)
2010年10月号	寄り添い、ともに歩む(漆原比呂志・濱田麻里)
2010年11月号	すべては恵みのうちに(漆原比呂志・林愛子)
2010年12月号	ミッションはすべての人に(漆原比呂志・辻明美)

きずな(日本カトリック海外宣教者を支援する会発行)

No.111(2010年6月1日)	親身になって関わること(高橋真也)
No.112(2010年9月1日)	自分の足で立つ(高橋真也)
No.113(2010年12月1日)	夢の実現(高橋真也) 事務局訪問の宣教者の紹介(林愛子、松本和歌子)
No.114(2011年3月1日)	巻頭言「人々と共に生きる」東ティモールの現場から(佐藤邦子) 日本で働くカンボジア人(高橋真也) 新派遣者の紹介(相沢雅弘、篠田正司、石田咲子、深堀夢衣、小野武)

カトリック新聞(カトリック新聞社刊)

2010年4月18日号	サッカーを通じて現地学習
-------------	--------------

15. 報告会・説明会・講演

活動報告会を次のとおり行った。(一部再掲)

活動報告会(全体)

2010年 6月23日(水)	芝浦工業大学	漆原比呂志
2010年 8月14日(土)	東京教区平和旬間	酒井信明
2010年 8月25日(水)	福岡雙葉中学校・高等学校	漆原比呂志
2010年 8月25日(水)	長崎青年の集い	漆原比呂志
2010年11月 3日(水)	榛原地区宣教司牧委員会・信徒養成講座(カトリック藤枝教会)	漆原比呂志
2010年12月 6日(月)	八王子市立南大沢小学校	漆原比呂志
2010年12月22日(水)	六甲中学・高等学校	漆原比呂志

カンボジア報告会

2010年 7月 8日(木)	今井海外協力基金の諮問委員会における事業報告	高橋真也・漆原比呂志
2010年 7月 9日(金)	NPO 法人「芝の会」において、水上公園に関する活動報告	高橋真也
2010年 7月11日(日)	横浜教区カトリック由比ガ浜教会	高橋真也
2010年 7月12日(月)	ベタニア修道院	高橋真也
	コングレガシオン・ド・ノートルダム調布	高橋真也
2010年 8月 8日(日)	カトリック立川教会東京教区平和旬間講演	近藤西紀
2010年10月13日(水)	湘南白百合学園中学校・高等学校「ステラ会」	浅野美幸
	白百合女子大学講義	高橋真也
2010年10月16日(土)	CAMBODIA DAY	浅野美幸、高橋真也
2010年10月17日(日)	横浜教区カトリック菊名教会	浅野美幸
	横浜教区カトリック藤沢教会	高橋真也
2010年10月18日(月)	福山暁の星小学校(5、6年生)	高橋真也
	福山暁の星中学校(3年生)	高橋真也
	援助マリア修道会 福山修道院	高橋真也
2010年10月20日(水)	広島教区カトリック宇部教会	高橋真也
2010年10月21日(木)	援助マリア修道会 長府修道院	高橋真也
2010年10月22日(金)	広島教区カトリック山口教会	高橋真也
2010年10月23日(土)	広島教区カトリック長府教会	高橋真也
2010年10月26日(火)	援助マリア修道院 長崎修道院	高橋真也
2010年10月27日(水)	長崎純心大学	高橋真也
	善きサマリア人修道会奈良修道院	林愛子
2010年10月28日(木)	京都教区カトリック登美ヶ丘教会	林愛子
2010年10月30日(土)	長崎教区カトリック西町教会	高橋真也
2010年10月31日(日)	日本二十六聖人記念館	高橋真也
	長崎コレジオ	高橋真也
2010年11月 3日(水)	榛原地区宣教司牧委員会・信徒養成講座(カトリック藤枝教会)	高橋真也
2010年11月 7日(日)	新潟教区カトリック米沢教会	高橋真也

2010年11月 8日(月)	聖ウルスラ学院英知小中学生・高等学校	高橋真也
2010年11月 9日(火)	仙台白百合学園中学校	高橋真也
2010年11月10日(水)	芝浦工科大学工学部	高橋真也
2010年11月11日(木)	NPO 法人「芝の会」	高橋真也
2010年11月20日(土)	DBVG(ドンボスコボランティアグループ)	濱田麻里
2010年11月26日(金)	カリタス小学校	濱田麻里
2010年11月28日(日)	カトリック由比ガ浜教会・チャリティーコンサート	漆原比呂志
2010年12月 2日(木)	サレジオ修道会四日市サレジオ志願院	林愛子
2010年12月 5日(日)	大阪教区青年の集い	林愛子

タイ報告会

2010年10月16日(土)	北九州市 GGP 学習会	松本和歌子
2010年10月17日(日)	福岡教区カトリック水俣教会報告会	松本和歌子

東ティモール報告会

2010年 4月18日(日)	名古屋教区カトリック平針教会	佐藤邦子
2010年 9月19日(日)	横浜教区カトリック津久井教会	渡邊怜子
2010年 9月26日(日)	横浜教区カトリック横須賀三笠教会	渡邊怜子
2010年10月 3日(日)	横浜教区カトリック大和教会	渡邊怜子

派遣募集説明会(再掲)

2010年 7月17日(土)	カトリック南山教会 マリア館集会室2
2010年 7月18日(日)	大阪大司教区教区本部集会室
2010年 8月29日(日)	カトリックセンター長崎
2010年 9月19日(日)	札幌教区ベネディクトハウス 1階会議室
2010年 9月25日(土)	フランシスコ会聖ヨゼフ修道院 1階ホール

16. バザー・イベント等への参加・企画協力

2010年 4月11日(日)	カトリック雪ノ下教会福祉バザー出展
2010年10月 2日(土)・3日(日)	グローバルフェスタ JAPAN2010(日比谷公園)出展
2010年10月10日(日)	カトリック小金井教会バザー出展
2010年10月17日(日)	カトリック立川教会バザー出展
2010年10月23日(土)・24日(日)	カトリック山手教会バザー出展
2010年10月24日(日)	カトリック三軒茶屋教会バザー出展
2010年度(通年)	横浜雙葉中学高等学校 総合学習企画協力

17. スタディーツアー

諸団体からの依頼、会員や一般参加者に向けスタディーツアーの企画を行った。

(1) JLMMカンボジアスタディーツアー(Aコース)

2010年7月29日(木)～8月8日(日) 参加者7名

行程: プノンペン→コンポントアン→タオム→シェムリアップ

(2) JLMMカンボジアスタディーツアー(Bコース)

2010年9月3日(金)～9月9日(木) 参加者12名

行程: プノンペン→コンポントアン→タオム→シェムリアップ

(3) 専修大学 SIA カンボジアスタディーツアー

2011年2月6日(日)～21日(月) 参加者17名

行程: プノンペン→モンドルキリ→コンボンソム→コンポントアン→バットアンバン→タオム→シェムリアップ→バンコク

(4) 芝の会カンボジアスタディーツアー

2011年2月23日(水)～3月2日(水) 参加者7名

行程: プノンペン→コンポントアン→シェムリアップ

18. 会議

(1) 運営委員会

開催回	開催日	会場	議 題
第1回	2010年 6月29日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	<ul style="list-style-type: none">・各国・国内活動状況について・2009年度事業報告(案)及び収支決算(案)について・フェローズ制度(仮称)について・2010年度研修について・その他(モンゴル・ミャンマー視察報告、2011年度派遣候補者募集について、夏休みボランティアDAYについて、スタディーツアーについて)
第2回	2010年 10月8日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	<ul style="list-style-type: none">・各国・国内活動状況について・任期延長申請について(佐藤邦子、渡邊怜子)・2010年度派遣先について・2011年度派遣候補者募集について・フェローズについて・職員給与について・その他(研修所について、チャリティーコンサート開催について、午後のバラエティタイム開催について)
第3回	2010年 12月17日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	<ul style="list-style-type: none">・各国・国内活動状況について・2011年度派遣候補者について・フェローズについて・松本和歌子の帰国時期について・高橋真也任期延長について

			<ul style="list-style-type: none"> ・次期顧問司教について ・その他(チャリティーコンサートについて、議事録署名について)
第4回	2011年 4月14日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 1階ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・フェローズ派遣報告 ・各国・国内活動状況について ・顧問司教について ・第3回議事録確認と署名 ・任期延長申請について(濱田麻里、林愛子) ・会則の一部修正について ・2011年度事業計画(案)及び収支予算(案)について ・2011年度研修について ・法人化について ・その他(仙台教区サポートセンターへの協力等について、アカウンタビリティ・セルフチェックについて、AFMET 創立10周年記念誌「望」について)

(2) ボランティア DAY 実行委員会

午後のバラエティータイムの第1回の企画として、学生を対象とした夏休みイベント「ボランティア DAY」を、実行委員会を組織し企画した。自分達の日々の暮らしと開発途上国との暮らしが実は密接に関係していることを掲示や分かち合い、ゲームによって理解できるものとした。

ボランティア DAY は2010年8月20日(金)開催。

委員:小川大樹、高野愛、岸原礼、佐藤未来、中村哲明、上田周作、鈴木俊良、小出綾子、入澤怜美、渡邊展幸、加藤碧、安西祐哉(敬称略)

会議:2010年7月23(金)、8月3日(火)、8月13日(金)

(3) CAMBODIA DAY 実行委員会

2010年10月16日開催の CAMBODIA DAY を実行委員会形式で開催した。

委員:小塚めぐみ、岸原礼(敬称略)

会議:2010年9月3日(金)

(4) グローバルフェスタ実行委員会

2010年10月2日、3日に日比谷公園にて開催されるグローバルフェスタ JAPAN2010出展にあたり、JLMM 支援者を中心に実行委員会を発足。出展に向け企画、準備、実施した。

出展内容は協議の結果、従来の活動紹介に加え、飲食とワークショップにも出展することとした。

テーマをカンボジアの活動におき、テント内での活動紹介は映像でクイズを出題し、ステンミエンチャイ地区での活動紹介を行った。飲食ブースでは、ステンミエンチャイ地区で行っている屋台貸出プロジェクトで販売する「ロッチェ」を模擬販売した。ワークショップでは、「自分で作るスタディーツアー」と題し、参加者が自由にスタディーツアーを作り上げるプログラムを行った。

あわせてゴスペル ミニコンサートも行い、好評を得た。

委員：小塚めぐみ、對馬徹、町田春海

当日ボランティアスタッフ：岸原礼、上田周作、小川大樹、高野愛、飯野瞳、柳原康太、森上聡子、加藤碧、高橋亮介、並木健太、都築知美、佐藤未来、新里勇氣(敬称略)

会議：2010年8月24日(火)

○グローバルフェスタ JAPAN2010

期日：2010年10月2日(土)、3日(日)

会場：日比谷公園(東京都千代田区)

主催：外務省、独立行政法人国際協力機構(JICA)、特定非営利活動法人国際協力 NGO センター(JANIC)

(5)フェローズ委員会(再掲)

フェローズ制度を施行に際し、フェローズ委員会を設置し制度内容の検討を行った。

委員：小林誠副運営委員長、岸野真理子運営委員、大垣俊朗運営委員、事務局

会議：第1回：2010年 4月23日(金)

第2回：2010年 6月22日(火)

第3回：2010年10月22日(金)

第4回：2010年11月26日(金)

19.所属団体等

2011年3月31日現在、当会が所属する団体等は次のとおりである。

日本カトリック司教協議会 公認団体 (2002年5月9日加盟)

特定非営利活動法人国際NGOセンター(JIANC)正会員 (2009年10月23日承認)

アジア司教協議会連盟福音宣教局 アジア信徒宣教団体会議 (2010年1月24日参加)

2011年3月31日現在、当会が派遣する外部委員は次のとおりである。

カリタスジャパン カリタスジャパン委員会委員・カリタスジャパン援助部会委員 (2010年9月より)

財 産 目 録

日本カトリック信徒宣教者会
2011年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
預金			
三菱東京UFJ銀行			
六本木支店 普通	2,255,736		
六本木支店 普通	792,121		
六本木支店 定期	1,769,292		
郵便振替口座	591,101		
流動資産合計		5,408,250	
2 固定資産			
有形固定資産			
什器備品			
パソコン3台	258,742		
無形固定資産			
電話加入権			
03-5414-0991	74,984		
固定資産合計		333,726	
資産合計			5,741,976
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金			
労働保険料	22,590		
預り金			
社会保険料	91,383		
労働保険料	5,801		
県市民税	2,000		
流動負債合計		121,774	
負債合計			121,774
正味財産			5,620,202

貸借対照表

日本カトリック信徒宣教師会

2011年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
預金	5,408,250	
流動資産合計		5,408,250
2 固定資産		
什器備品	258,742	
電話加入権	74,984	
固定資産合計		333,726
資産の部合計		5,741,976
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	22,590	
預り金	99,184	
流動負債合計		121,774
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	10,652,265	
当期正味財産減少額	△ 5,032,063	
正味財産合計		5,620,202
負債及び正味財産合計		5,741,976

収支計算書

日本カトリック信徒宣教師会

自2010年4月1日 至2011年3月31日

NO. 1

収入の部

(単位:円)

科 目 名		10年度予算A	10年度決算B	増減額B-A	増減率 B/A	備 考
収入の部	会費収入	1,700,000	1,413,660	△ 286,340	83.2%	
	寄付金収入	18,000,000	13,863,676	△ 4,136,324	77.0%	
	助成金等収入	6,400,000	6,831,970	431,970	106.7%	大阪教区, AFMET
	受取利息	1,000	1,953	953	195.3%	
	雑収入	10,000	0	△ 10,000	0.0%	
	当年度収入合計(A)	26,111,000	22,111,259	△ 3,999,741	84.7%	
前年度繰越金(B)	4,000,000	10,259,464	6,259,464	256.5%		
収入合計 (C)=(A)+(B)	30,111,000	32,370,723	2,259,723	107.5%		

支出の部

科 目 名		10年度予算A	10年度決算B	増減額B-A	増減率 B/A	備 考	
支出の部	1. 人件費 (D)	7,709,000	8,260,445	551,445	107.2%		
		給料手当	6,144,000	6,596,000	452,000	107.4%	2名分
	通勤手当	588,000	587,760	△ 240	100.0%		
	退職金	0	0	0			
	法定福利費	963,000	1,056,328	93,328	109.7%		
	福利厚生費	14,000	20,357	6,357	145.4%	健康診断	
	2. 事務運営費 (E)	1,786,000	1,803,002	17,002	101.0%		
		会議会場費	5,000	8,000	3,000	160.0%	
		会議食事代	5,000	747	△ 4,253	14.9%	派遣候補者選考
		会議旅費交通費	0	0	0		
		電話料	400,000	379,984	△ 20,016	95.0%	
		郵便切手送料	150,000	108,165	△ 41,835	72.1%	
		印刷コピー代	100,000	156,977	56,977	157.0%	
		備品費	0	0	0		
		旅費交通費	50,000	73,100	23,100	146.2%	
		消耗品費	100,000	15,302	△ 84,698	15.3%	
		リース料	726,000	738,600	12,600	101.7%	
		支払手数料	110,000	126,502	16,502	115.0%	振替手数料等
		諸会費	40,000	40,000	0	100.0%	司教協議会公認団体, JANIC
		水道光熱費	75,000	78,375	3,375	104.5%	
	維持管理費	5,000	0	△ 5,000	0.0%		
	慶弔費	20,000	77,250	57,250	386.3%		
	運営費支出合計 (F)=(D)+(E)	9,495,000	10,063,447	568,447	106.0%		
	活動費	研修費	2,001,000	3,301,234	1,300,234	165.0%	
		派遣活動費	9,967,000	5,867,104	△ 4,099,896	58.9%	
		調査研究費	3,521,000	4,765,597	1,244,597	135.3%	職員1名分含む
		広報活動費	3,220,000	2,812,950	△ 407,050	87.4%	
行事費		155,000	273,915	118,915	176.7%		
活動費支出合計 (G)	18,864,000	17,020,800	△ 1,843,200	90.2%			
運営費活動費計 (H)=(F)+(G)	28,359,000	27,084,247	△ 1,274,753	95.5%			
財務支出合計 (I)	0	0	0				
当年度支出合計 (J)=(H)+(I)	28,359,000	27,084,247	△ 1,274,753	95.5%			
当期収支差額 (K)=(A)-(J)	△ 2,248,000	△ 4,972,988	△ 2,724,988	221.2%			
次期繰越収支差額 (L)=(C)-(J)	1,752,000	5,286,476	3,534,476	301.7%			

正味財産増減計算書

日本カトリック信徒宣教者会

2010年4月1日から2011年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額		
I 増加の部			
1 資産増加額			0
増加額合計			0
II 減少の部			
1 資産増加額			
減価償却費	59,075		
当期収支差額	4,972,988	5,032,063	
減少額合計			5,032,063
当期正味財産減少額			△ 5,032,063
当初正味財産額			10,652,265
期末正味財産合計額			5,620,202
			0

計算書類に対する注記

1 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却について
有形固定資産の減価償却は定額法を採用している。
- (2) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金及び前払費用を含めることにしている。なお、当期末残高は2に記載のとおりである。

2 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科目	前期末残高	当期末残高
預金	10,340,337	5,408,250
合計	10,340,337	5,408,250
未払金	0	22,590
預り金	80,873	99,184
合計	80,873	121,774
次期繰越収支差額	10,259,464	5,286,476

3 有形固定資産の取得価額、当期償却額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価格	前期末残高	当期償却額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	668,733	317,817	59,075	△ 409,991	258,742
合計	668,733	317,817	59,075	△ 409,991	258,742

監査意見書

日本カトリック信徒宣教者会会則第13条第4項の規定に基づき、2010年度における事業の執行状況並びに財務の状況について、当該年度の活動報告書及び収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表並びに財産目録、更にはこの内容を証する関係諸帳簿、証拠書類等を精査したところ、いずれも適正に処理されていると認められた。

2011年6月15日

日本カトリック信徒宣教者会

監事 (財務)



2011年6月21日

日本カトリック信徒宣教者会

監事 (事業)

